長期集団宿泊活動の手引

【実践編】

平成 29 年３月

広島県教育委員会

豊かな心を育成するための長期集団宿泊活動の手引【実践編】

はじめに

Ⅰ　学校の取組事例

（１）自律性や責任感を育成するための取組
　　○　福山市立西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

（２）自尊感情を高めるための取組
　　○　海田町立海田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（３）協調性を育成するための取組
　　○　尾道市立山波小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

（４）コミュニケーション能力を育成するための取組
　　○　呉市立波多見小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

（５）思いやりを育むための取組
　　○　尾道市立吉和小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

（６）主体性を育成するための取組
　　○　竹原市立竹原小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

（７）特別な支援が必要な児童への支援を充実させるための取組
　　○　府中市立上下南小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

Ⅱ　市町教育委員会の取組事例

（１）体験活動の指導力を向上させるための教職員による宿泊研修
　　〇　世羅町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

（２）教科との関連を図り日常へとつなぐ体験活動
　　〇　大崎上島町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

（３）協調性を育成するための複数校による合同実施
　　〇　三原市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

（４）安心・安全に活動できるようにするための実行委員会
　　〇　神石高原町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

（５）ふるさとを知ることを目的とした学習
　　〇　北広島町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

はじめに

広島県教育委員会では，児童の豊かな人間性や社会性を育むことを目的として，３泊４日の長期集団宿泊活動が，県内の全公立小学校で実施されるよう，「『山・海・島』体験活動“ひろしま全県展開プロジェクト”」を推進して参りました。

県教育委員会といたしましては，３泊４日「山・海・島」体験活動を，平成29 年度以降も広島県の特色ある教育活動として推進するため，主要施策の一つに位置付け，実施プログラムの質的向上を目指した教職員研修の開催，教育効果の高い取組から学ぶ実践発表会の実施などの支援を行うなど，各学校における体験活動プログラムの充実に資する取組を進めていきます。

その一つとして，平成 28 年７月に，体験活動の意義や学習指導要領で求められる小学校での集団宿泊活動の在り方，プログラム開発の基本的な考え方などをまとめた「長期集団宿泊活動の手引【理論編】」（以下【理論編】という。）をまとめました。

そして，このたび,【理論編】での基本的な考え方を踏まえ，児童の目指す姿を明確にした学校の効果的な取組と市町教育委員会の取組を掲載した「長期集団宿泊活動の手引【実践編】」（以下【実践編】という。）を作成しました。

【実践編】の特徴は，３点あります。１点目は,【理論編】で示している指標に基づいた好事例を掲載していることです。２点目は，体験活動当日のポイントに加えて,「事前学習」,「事後学習」のポイントを整理し示していることです。３点目は,「個性の伸長」や「自主的，実践的な態度の育成」を目標としている特別活動と関連の深い生徒指導とのつながりを示したことです。

広島県の小学生の豊かな心を育てていく長期集団宿泊活動を，さらに充実するために【理論編】【実践編】を活用してください。

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組

自律性や責任感を育成するための取組

福山市立西小学校　校長：小畠　八重【施設泊】ツネイシしまなみビレッジ

キーワード：児童による目標の設定・自己評価と他者評価

1　児童自らが集団としての課題を出し合い，それらを克服していくため体験活動の概要

（1）児童の主体性を育てる視点からの目標設定

本校では，宿泊活動の目的を次のように設定しています。

○　一人一人が責任を持って自分の役割を果たし，協力して自分たちの力で集団生活が出来る力を付ける。

○　自然の中での体験活動を通して，総合的な学習の時間，教科等や道徳の発展的な学習を進め，心を豊かに育てる。

その学校としての目的を受けて，児童が自律的に取組を進めていくために実行委員会を組織しました。まず実行委員会では，具体的なテーマを他の児童に公募をしました。いくつかの公募の中から，実行委員会が協議をし，最終的に具体的なテーマを決めました。

児童が考えを出し合って決めた３泊４日体験活動のテーマ
「みんなで協力・スクラム組んで・笑顔はじける宿泊学習，山海島」

事前学習のポイント：自分たちの課題分析

自分たちで課題を出し合って，体験活動のテーマや目標を決めています。自分たちで設定しているので，子供たちは，主体的に責任を持って取り組むことができます。

（2）児童による実行委員会

実行委員会では，テーマ以外にも，活動時の司会，挨拶，お礼の言葉の担当をしたり，中心となってしおりを作成したりしました。

宿泊活動前に，課題を出し合った時には，次のような課題が出てきました。

○　あまり家の手伝いをせず，身の回りのことは家族にしてもらうことがある。

○　掃除や給食当番のとき，しゃべったり遊んだりしてしまい，やらなくてはいけないことなのに，友達に任せることがある。

○　１つのことに集中する力が足りなくて，しんどくなるとがまんできず，すぐ楽な方へ流されてしまう。

○　話し合い活動が苦手で，友達の考えと自分の考えがちがったとき，それを受け入れられず，自分の意見を主張しすぎて，言い争いみたいになることがある。

○　「言われる前に行動しなさい。」って，先生から叱られるようなこともある。

○　次の予定が分かっていても，時間を見て行動できないこともある。

これらの課題を解決し，自分たちを成長させる宿泊学習にするために，事前にいろいろな準備をしていきました。

まず，一人一人がめあてをもとうと，スローガンを考えました。また，実行委員会では，実行委員が中心となり，しおりを作ったり，活動の司会進行や，あいさつ，お礼の言葉を担当したりしました。実行委員会形式を取り入れたことによって，自分たちで宿泊活動を作り上げようという気持ちが生まれてきました。

実行委員を務めた児童の感想

わたしは宿泊学習で実行委員を経験したことで，『人前に出て発表する力』がついたと思います。

今までは，授業中の発表も自分から進んですることはあまりありませんでした。でも，実行委員になって，代表としてお礼やお願いのあいさつをする場面が多くありました。自分で文章を考え，それを覚えて発表することは，緊張してうまくできないこともありました。しかし，練習を繰り返し何度も経験する中で，だんだんと自信をもって話せるようになりました。苦手だと決めつけてやらないのではなく，いろいろなことにチャレンジして経験を積むことで自分の力になることが分かりました。

宿泊学習が終わって，授業での発表も増えました。また，選挙管理委員にも立候補しました。これからもチャレンジを続け，六年生になっても苦手なことにも挑戦していきたいです。

事前学習のポイント：役割分担のすきま

実行委員を務めることによって，自分の役割への意識が高まります。他者からの「司会ぶり，とてもよかったよ。」の一言で，一人一人のモチベーションはさらに高まります。

ただ，自分の役割と他者の役割だけでは対応できないことも出てきます。そのような時でも，そのすきまをうめるような動きをする子供たちが必ず出てきます。こういった子供たちの姿を見逃さず，肯定的な言葉がけをすることによって，集団としてさらに高まっていきます。

生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：自己存在感を与える

一人一人は，かけがえのない存在であり，一人一人の存在を大切にする指導が重要です。子供たちの役割を明確にし，任せきることも必要です。また，自己存在感は，他者とのかかわりの中で，見いだされることもあるので，望ましい集団づくりも重要です。

さらにステップアップ！！

体験活動の事前と体験活動当日，事後とを関連づけて活動させることで，学校においても，自覚して自らの役割を超えて活動し始める子供たちが出てきます。教職員だけでなく子供たち同士でも肯定的に認め合うことができると，子供たちのやる気はさらに高まります。

（３）３泊４日体験活動の主な内容

	午前	午後	夜
１日目	社会見学（ＮＨＫ・マツダミュージアム・昆虫館）		入所式
２日目	火起こし体験 飯ごう炊さん	オリエンテーリング レクリエーション	ＢＢＱ 星空観察
３日目	座禅体験	備前焼陶芸教室 飯ごう炊さん	キャンプファイヤー 家族からの手紙
４日目	カッター訓練 退所式		

２　実践の内容

（１）２回の飯ごう炊さんでの児童の変容

今回の宿泊学習では，飯ごう炊さんは，二日目と三日目の２回行いました。１回目は昼ご飯でカレー，２回目は晩ご飯ですき焼きを作りました。繰り返すことで，１回目の反省を生かして改善を図ろうとする姿が見えるなど，児童自らが考えて取り組もうとする姿が見られました。

飯ごう炊さんを通した児童の感想

○　飯ごう炊さんでは，仕事を分担して行ったのですが，一番大変なのは，火の番でした。３５度近くある暑さの中，火のそばにいるだけでも大変なのに，なによりけむりが目にしみて，つらかったです。目をはなすと，火が大きくなりすぎたり，消えかかったりしてしまいます。

だから，同じ人がずっとするのではなく，交代しながらしました。一回目にしみるとなかなか治らなくて，また交代すると二回目は，最初から目が痛くて大変でした。でも，みんなすぐ交代してくれたからうれしかったです。片付けも，分担したこと以外にも，終わってない所を手伝ったから早く終わりました。

○　飯ごう炊さんでは，仲間との協力意識が高まったと思います。わたしたちの班は，始める前に仕事の分担をしっかり話し合いました。一つの仕事にかたよってしまうといけないと思ったからです。その分担も，みんなのやりたいことや得意なことを生かすように考えました。そして，調理から片付けまで，自分の仕事は最後までやりきるようにしました。１回目の時に時間がかかったグループは，２回目の飯ごう炊さんの前に，もう一度話し合って分担を変えました。１回目に比べて２回目は，ふっくらおいしいご飯を炊くことができました。

体験活動当日のポイント：敢えて同様の活動を行う

同様の活動を行うことで，前日の課題を乗り越え，挑戦することができるようになります。また，一人一人が何をどのようにしていくかを理解した上で活動することになるので，１回目に失敗したことや上手くいかなかったことを取り戻すことができます。

体験活動当日のポイント：自己評価

自分たちの成長や変容は，まず自分たちで感じることが重要です。「しんどくてもやりきった」など，望ましい自己評価について，事前に想定し，子供たちの振り返りにそれらの言葉が出てきたときに，逃さず認めていくことが大切です。

（２）夜の集い「この人きらり☆」

一日の振り返りをする夜の集いでは，班の振り返りと次の日の　目標設定，そして，お互いのよさを見つける「この人きらり☆」の取組をしました。「この人きらり☆」は，お互いのよさを見つけることで，関わり合うことが当たり前にできていることを確認できます。「〇〇さん，カレー作りのとき最後まで片付けをしていたね。」，「〇〇さん，バーベキューの時，コップがなくて困っていたときに，コップを持ってきてくれてうれしかったよ。」など，書き込んでいきます。

3泊４日で見つけた「この人きらり☆」

また，付箋紙に書き，貼ることによって，視覚的に付箋紙が増えていくことを確かめることができて，肯定的評価を得られるものとなりました。身体は疲れていても精神的に元気づけられるものになりました。

「この人きらり☆」に取り組んだ児童の感想

〇　一人一人の活動の振り返りを聞く中で，その人がどんなところを大変だと感じたのか，どんなふうにがんばったのかが分かり，自分の見方や考え方が広がりました。

〇　ふせんに書くことをきっかけに，友達の嫌な面ではなく，よさに目を向けられるようになりました。

〇　友達のことを書くだけでなく，友達に自分のことも書いてもらい，自分のがんばりを認めてもらって，すごくうれしくなりました。

〇　ふせん紙がホワイトボードいっぱいになっていくのを見ていると，元気がわいてきました。

（３）家族からの手紙

最後の夜の集いでは，サプライズとして，家族から預かっていた手紙を手渡しました。

普段は家族から手紙をもらうことはないので，子供たちは驚いたり，喜んだりしていました。また，ほとんどの子供たちが３泊もの長い間，初めて家族と離れたので，早く会いたい気持ちにもなったようです。

家族から手紙をもらった児童の感想

〇　ぼくは，一日の生活の中で，布団の片付けや掃除，ご飯の準備や片付けなどやらなくてはいけないことがたくさんあるなと初めて思いました。今まで気づいてなかったのは，ほとんど家族がしてくれていたからだと分かりました。全部自分一人でするのは大変でした。

〇　元気なときでも大変なのに，家族は体調が悪い時でもしてくれている。今まで当たり前だと思っていたけど，感謝しないといけないと思いました。

〇　わたしは，手紙をもらって，言葉にしていなくても，ふだんからわたしたちのことを応

援してくれているんだなと思いました。家族からの言葉にすごくパワーをもらいました。３泊４日もの長い間，家族と離れていたから，気付くことができたと思います。

体験活動当日のポイント：他者評価

他者から肯定的な評価を受けて，自己有用感を感じることは大切です。併せて一人一人の子供たちが，自分を振り返って自分のがんばりを認めることができるようにしていくことも大切です。

さらにステップアップ！！

「自尊感情」は，自己に対して肯定的な評価を抱いている状態を指す Self-esteem の日本語訳です。一方，「自己有用感」は人の役に立った，人から認められたといったような相手の存在なしには生まれてこない点が「自尊感情」とは異なります。

「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」を育むことが大切です。

引用：生徒指導リーフ「『自尊感情』？それとも，『自己有用感』？」

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（平成 27 年３月）

３　体験活動終了後の子供たちの変容

（１）家族からの肯定的な評価

児童による自己評価，また友達同士の相互評価はもちろん大事ですが，保護者の方の子供たちへの声かけも，子供たちにとってはとても大きな評価になります。

体験活動終了後の保護者の感想

○　家では，手伝いをしてくれるようになりました。特に，食べた後の食器の片付けや料理ですね。「ありがとう」もよく言ってくれるようになりました。そして，時間を見て行動できるようにもなって驚きました。

○　宿泊学習では，意見のぶつかり合いがあったそうですが，班で話し合って解決したと聞き，人の意見を受け入れられるようになったんだなあと，成長を感じましたね。また，失敗しても「一人のせいじゃないよ」という声かけがあったと聞き，相手の気持ちになって考えることができるようになったとうれしく思いました。

（２）体験活動での成長を，事後の学校生活に生かしていく取組

宿泊学習でたくさんの経験を通して成長したことを，宿泊学習を終えた後でも，その経験を生かそうと取り組んでいます。

体験活動終了後の学校での様子

○　ぼくは，委員会や係の仕事を絶対に忘れないように責任を持って取り組んでいます。そして，誰かに言われる前に自分から動くよう意識しています。

○　わたしは，学級委員や運動会の係などにチャレンジするようになりました。運動会の組体操でしんどくても最後まで全力でやりきるようにしました。

○　わたしは，歌があまり得意ではないけれど，学習発表会に向けての合唱練習等で，あきらめずに努力しています。

学年として，できるようになったことを次のようにまとめています。３泊４日をやりきったことで感じた自分たちの成長をまとめておくことで，日頃の学校での生活においても，６年生に続く学校のミドルリーダーとしての自覚も出てきました。

学年でのまとめ
〇一人ではできないことも，みんなの力を合わせれば実現できる。
〇一人でするより，みんなと一緒なら何倍も楽しい。
〇自分のよさを認め，支えてくれる友達，家族。
〇これからは，ぼくたちが支えられるように強くなっていく。

４　特別支援学級の子供たちも安心して活動できる環境づくり

（１）難聴学級の児童への取組

福山市の難聴学級は，「難聴の子どもたちに聞こえに配慮した細やかな教育を保障したい。」という関係者の熱意と尽力により開設されています。福山市では，西小学校・城北中学校・西幼稚園に開設しています。

難聴学級では，聞こえを補償するための手立てを工夫したり，特別な教育課程（自立活動）として言語訓練（聴能訓練）をしたりしています。また，通常の学級との交流及び共同学習を通して，ともに学び合う態度を育てています。

（２）長期集団宿泊学習において考慮した取組

難聴学級の児童は，総合的な学習・生活科・理科などでは，交流学級で学級担任とのＴ・Ｔによる指導で学んでいるので，周囲の児童との関わりも深いです。

交流学級の児童は，今回の長期集団宿泊活動においても普段からしている関わりをしていましたが，特に野外での活動ということもあり，次のようなことをより意識してきました。

〇　普段から意識していることであるが，難聴の児童に対しては，口の動きを見せながらゆっくり話すようにしている。

〇　通常の学級の児童と同じように係や仕事分担をした。できないことについては，周囲が声かけや手を貸す等，サポートするようにした。

「この人キラリ☆」に書かれた児童のことば

〇　交流学級の児童から難聴学級の児童へ

男子部屋のみんなの脱いだ靴が散らかっていたとき，すぐにそろえてくれてありがとう。

〇　難聴学級の児童から交流学級の児童へ

食事の準備のとき，（歩行器を使っているので）自分が食器を運べなくて先生を探していたら，「持っていくよ」と声をかけてくれてありがとう。

事前―体験活動当日―事後のポイント：他者の立場に立って想像すること

友達の立場になって，野外になった状況や突発的に対応しなければならないことまでを考えてあげる等，友達への思いやりの気持ちが持てるように指導をしてことが大切です。子供たちが日頃の学校生活の延長上としてとらえていることが，西小学校の日頃の教育活動の成果です。

自尊感情を高めるための取組

海田町立海田小学校　校長：寺岡　成希【施設泊】国立江田島青少年交流の家

キーワード：問題解決・「絆」・事前―体験活動当日―事後のつながり

1　体験活動のねらい

（1）事前アンケートの結果

８月に実施する野外活動の事前アンケートを５月に入ってすぐに行いました。この事前アンケートでは，「相手の立場に立って考えること」や「相手の考えを受け入れること」，また「相手が納得するように伝えること」の項目について，課題と感じている子供たちの状況が分かりました。

また，事前アンケートでは，子供たち一人一人が３泊４日で不安に感じていることを尋ねるようにしました。子供たちの実態を把握するとともに，一人一人の不安解消に向けた対策を個別に講じるようにしました。

（2）方針の決定

事前アンケートの結果を受けて，心の教育の観点を重視することとし，目標と身に付けたい資質・能力を次のように設定しました。

○体験活動での目標

日々の生活とは異なる自然の中での体験活動を通して，友達との関わり合いを通して，円滑なコミュニケーションを図り，自他の良さに気付くことができる。

○身に付けたい資質・能力

仲間との協力（他者と円滑に関わり合える力）	
友達と協力して何かを成し遂げることができた体験	協調性・柔軟性　責任感　コミュニケーション能力　共感力　人としての思いやり・優しさ・信頼感　自己理解　自らへの自信
発見①友達の良さ	
出来ないことを教えてもらえた，はげましてもらえた体験	人としての思いやり・優しさ　自己理解　自らへの自信
発見②自分の良さ	
できないと思っていたことにも挑戦した体験	チャレンジ精神　主体性・積極性
できないことができるようになった体験	自己理解　自らへの自信

生徒指導の三機能を踏まえた取組について

海田小学校では，生徒指導の三機能をいたるところに生かして取組を進めています。

生徒指導は，一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら，同時に社会的な資質や能力・態度を育成し，さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり，個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すものです。

そして，その自己指導能力を育成するためには，生徒指導の三つの機能をあらゆる教育活動に生かすことが重要だとされています。

ア　児童生徒に自己存在感を与えること
イ　共感的な人間関係を育成すること
ウ　自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：共感的な人間関係

体験活動の目標は，児童同士と教職員，そして児童同士が，お互いに尊重し共感的に理解し合う人間関係を育成していくことを踏まえた内容となっています。さらに事前アンケートによって，児童一人一人の状況を把握することにより，指導の方針を立てて指導に当たっています。

○テーマの設定

「海小チャレンジ！！～仲間と絆を深めよう～」

３泊４日の体験活動では，日常では経験しない活動がたくさんあり，楽しいこともありますが，ままならないこともたくさんあります。その中で，一人ではできないことも，仲間と一緒に挑戦し，協力し合うことで成し遂げられることを子供たちに感じさせたいと考えています。

（３）３泊４日体験活動の内容と身に付けさせたい資質・能力との関連

	午前	午後	夜
１日目		オリエンテーション 人間関係づくりプログラム コミュニケーション能力・協調性	
２日目	カッター研修 達成感・連帯感	野外炊飯 コミュニケーション能力・協調性	海ホタル観察
３日目	海の生物観察	スタンツ練習 コミュニケーション能力・協調性	キャンプファイヤー 達成感・連帯感
４日目	奉仕活動 オリエンテーリング 思いやり コミュニケーション能力・協調性	退所式	

２　実践の内容

（１）人間関係づくりプログラム

初日に，人間関係づくりプログラムを行いました。この「人間関係づくりプログラム」では，クラスで話し合って目標を決め，手をつないだままフープを隣に送っていく課題に取り組んだり，グループで力を合わせて問題を解決したりする活動が行われました。

始めは，子供たちだけで話し合いを進めていく

ことは難しかったようですが，子供の感想として，「フラフープを通すときに，アドバイスや目標タイムを積極的に考えていてすごいと思いました。」，「みんながいろいろな意見を言っているときに，上手にまとめていました。わたしもまとめていくことができるように頑張りたいです。」などがあり，友達の良さに気付いたようです。

日頃の授業では，「相手が分かりやすいように理由をつけて自分の考えを発表する」，「相手の考えを受け止めながら自分の意見を話す」など，表現力の向上に取り組んできましたが，そのことを生かして活動をしているように感じました。

これらの活動を，その日の終わりに改めて振り返り，友達とコミュニケーションをとることの大切さを感じさせたり，一人一人の役割を果たしていくことを再認識させたりしていきました。

人間関係づくりプログラムでの児童の感想

○　グループで活動するときに大事だと思ったことは，話を最後まで聞くことです。今後，グループで活動するときには，必ず自分の考えを相手に伝えていきたいです。また，相手の意見を理解するようにしていきたいです。

○　これまであまり話したことのない友達とも，たくさん話をすることができました。その後もいろいろと話をすることができるようになって，仲を深めることができました。

○　友達のことを考えて行動している様子など，思いやりのある行動を見て，友達の新たな一面に気づきました。友達の良い所をたくさん見つけることができたと思います。

さらにステップアップ！！

さらに，体験活動当日にも，すべてがうまく行くとは限りません。そういった状況になった時に，引率者全員でどのような取組をするかを考えていく必要があります。直接子供たちに働きかけるのか，環境等を調整し対応するのか，どのような子供たちにしたいのかを踏まえて共通理解を図り，対応を考えましょう。

（２）本当にしんどい時にこその相手への思いやり

４日目になると体が疲れてきて，体力的にきつくなります。最終日はオリエンテーションがありました。そこでは，グループの意見がまとまらずすれ違いが起こることもありました。

そんなときも，グループでは，「自分の意見だけを押し付けるのは良くない。」，「相手の意見を聞くようにしないといけない。」など，すれ違っていた友達同士が，まずは謝り合い，心を開いていくことができるように，グループで解決をしていったようです。

このように，しんどい中でも子供たち同士でしっかりと考えていくことができたのも，テーマとしている「絆」について理解し，一人一人の子供たちが考えて行動したからだと思います。子供たちは，「『絆』の底力を試された。」と言っていました。

本当にしんどい時にこそ，声を掛けてもらった児童の感想

○　カッター研修では，本当にしんどい時に友達が「大丈夫。」と声を掛けてくれました。その言葉がとてもうれしくて，最後までがんばろうと思いました。

○　一番つらかった山登りでは，友達が声を掛けてくれたから，なんとか最後まで登りきることができました。友達にかけてもらった言葉で，最後まで頑張って登ろうと思いました。

○　最終日のオリエンテーションの時，行先について，自分の考えを押し付けすぎてしまい，ちがう行き方を考えていた友達とけんかになりました。周囲の友達を困らせていることに気付いた時，勇気を出して自分から謝りました。「ごめんね。」と言うと，相手の友達も「ぼくも自分の考えを言い過ぎた。」と言ってくれました。

生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：共感的な人間関係

本当にしんどい時でも，友達と共感的に理解し合うことができています。そのようにできるのも，集団としての高まりがあるからです。

子供たちは友達から受容され支持されることによって，集団の中における自分の姿を客観的に理解し，自分への自信と心理的安定感を強めることとなります。

体験活動当日のポイント：トラブル発生！！その対応は？

命に係わる重大な事案は別にして，それ以外のトラブルが発生したときには，大人がすぐに対応策を考えるだけでなく，子供たちに考えさせ，任せる勇気も必要です。トラブルが発生したときに，どのような対応をとるかについては，日頃の学校での取組と同様に，子供たちが成長を実感することができるように働きかけることが大切です。

小学校学習指導要領解説特別活動編には，「児童相互のかかわりを深め，互いのことをより深く理解し，折り合いを付けるなどして人間関係などの諸問題を解決しながら，協調して生活することの大切さが実感できるようにする。」とあります。子供たちのかかわりの中で，さらに実感を伴った取組にしていくと，より効果的です。引用：小学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 20 年８月）

（３）メッセージの交換

今回の野外活動では，最終日に，４日間の活動中に見つけた友達のよさを書き綴ったメッセージを交換し合いました。子供たちは少々照れながらも，班の人からもらったメッセージカードを，宝物のように見ていました。

こうした経験を通して，子供たち同士がさらに信頼関係を育み，コミュニケーションが取りやすくなったように思います。

３　３泊４日の体験活動を終えて

（１）海小輝き発見

本校では，昨年度から運動会や音楽会などの学校行事において，「自分や友達のよさ」「輝いていた場面」を見つける取組を，全校で継続して行っています。体験活動の最終日の行った「メッセージの交換」も，この取組の一環として行ったものです。

これら子供たちが記録したものは，空き教室を活用し常時展示をしています。今後もお互いのよさを見つけ合う活動を意図的に仕組み，子供たちの自尊感情を高める取組を進めています。

（２）後輩への報告会

体験活動が終了して，他学年への発表をする時には，本当にしんどい時に試された「絆」について，劇にしていくこととしました。うまくいったときのことだけでなく，うまくいかないときにどのように考えたのかを伝えていくためです。

これらを他の学年に伝える時には，話をするだけでなく劇の手法で内容を伝え，どのようにして解決をしていったのかについて伝えることとしました。

他学年への発表をした内容

○　不安な気持ちがあったから，友達同士で頑張ろうと思った。

○　けんかをした時には，しばらくどうしようか悩んだけど，「ごめんね。」と謝ると，すぐに仲良くなった。

○　最終日，友達がわたしの良いところをたくさん見つけてくれていた。

○　この仲間で，本当に良かったと思った。

ポイント：子供たちに意識させる短くてインパクトのあるテーマ「絆」

海田小学校では，体験活動の目的を，“絆”として，子供たちの目標として位置付けています。短くてもインパクトのある言葉であれば，体験活動での発表会や体験活動が終了後の指導においても活用することができます。

さらにステップアップ！！

海田小学校が作った他学年の発表会では，「絆」を次のように子供たちがまとめていきました。

絆とは，苦しい時こそ，なかまと声を掛け合い助け合うことだ。お互いの欠点ではなく，よいところを認め合うことだ。ひとりでは乗り越えられなかったことも，友達が一緒だから乗り越えられた。乗り越えるたびに，絆は，より深くなった。

子供たち自らが，言葉の意味を考え，価値づけていくことができています。これらの発表を作り上げていく過程においても，子供たちの自尊感情は高まっていきます。

生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：自己存在感

多様な集団活動の中で児童生徒にそれぞれに役割を受け持たせ，自己存在感を持たせ，自己の思いを実現する機会を十分に与えるとともに，集団との関係で自己の在り方を自覚させるように指導し，集団の一員としての連帯感や連帯意識，責任感を養うことが大切です。

また，社会の一員として生活の充実と向上のために進んで貢献していこうとする社会性の基礎となる態度や行動を身に付け，様々な場面で自己の能力をより良く生かし自己実現を図るようにさせることも大切です。

引用：生徒指導提要（平成 22 年３月）

（３）学校での授業においての変化

野外活動に行く前と比べて，子供たちは「話し上手，聞き上手」になったように思います。

授業中，以前はあまり自分の考えを述べなかった児童が進んで考えを述べるようになったり，相手の考えとちがう場合，「ちがいます」という言い方に加え，「たしかにその意見も分かるんだけど」と，相手の考えを受け止めながら話をしたりできるようになりました。また，「質問」という形で相手に再度考えてもらうように促すなど，友達の考えを尊重しながら自分の考えを言える子供が増えてきました。

このような子供たちの成長によって，考えをまとめたり深めたりする場合に，積極的に子供同士による議論する活動が展開できるようになってきました。このように「話す・聞く」の力が向上した背景には，３泊４日の体験活動を通じて，学校では見ることができない友達の姿を見ることにより，子供たち同士の信頼関係が深まったことが大きいと感じています。

協調性を育成するための取組

尾道市立山波小学校　校長名：宮　雅彦【施設泊】国立吉備青少年自然の家

キーワード：目標のリンク・作戦タイム・共感的な人間関係

1　体験活動の概要

（1）３泊４日体験活動プログラム設定時の工夫

○　子供たちが主体的に「やってみたい」,「楽しそう」と思えるような日常生活では味わえない体験活動を取り入れる。

○　主体的に子供たちが考えて行動できるように, 時間のゆとりを持たせたスケジュールにする。

○　目標を設定し，課題を解決する活動にする。

○　体験活動と日常生活をつなげる視点で事前の学習を充実させる。

	午前	午後		夜
１日目		マウンテンバイク		家族への手紙
２日目	カッター活動	作戦タイム	野外炊事	家族からの手紙
３日目	ウォークラリー（約 12ｋｍ）			キャンプファイヤー
４日目	振り返り・焼き板工作	退所		

（2）学校教育目標と学級目標と体験活動のねらいのリンク

学校教育目標「自ら学び　心豊かに　たくましく生きる　山波っ子の育成」
めざす子ども像「話を聞く子・伝える子」
○よく考え，学ぶ子　○思いやりのある子　○明るくたくましい子

学級目標「笑う門には福来る」
「一つの目標に向かって最大限の力を出していこう」
○メリハリ　○支持的風土　○規範意識を高める
～結果も過程も大事・みんなでクリアしていこう・何のためのルールなのか～

「いきいきスクール」の目標
豊かな自然の中で自然体験学習をすることで，自分たちの生活や自然環境との関わりについて考えるとともに，長期宿泊による生活時間を活用し，規律を守る・責任を果たす・協力する等，自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付ける。

事前学習のポイント：目標のリンク

日頃と異なる生活環境で，新たな発見をすることも大事なねらいの一つですが，より重要なことは，日常の生活に戻った時に，どのような姿になって欲しいかを考えて，体験活動のねらいを定めることです。

山波小学校では，体験活動が終わった後も，目指すべき子供たちの姿になるように，目標を設定することが必要と考え，学校教育目標・学級（学年）目標とリンクさせています。

目標を達成するためには，次のことにも留意しました。

○　計画の段階から，児童一人一人が目標をもって，主体的に活動できるよう，指導・支援を行う。

○　集団宿泊の意義や，協力することの大切さ，必要性を指導する。また，活動後も行事ごとに，振り返り活動を行い，活動の充実感を体感させる。

○　児童の間で協力して活動する場面を充実させ，お互いの良さを実感させ，自己肯定感を高める。

２　実践の内容

（１）カッター活動

湖の上で，櫂を使ってカッターを漕ぎ進め，目標地点を目指す活動です。かけ声に合わせて全員が櫂を操作しなければなかなか進めません。こういう活動だからこそ，友達同士での励まし合いが自然と生まれました。

カッター活動での児童の感想

○　最初は思うようにカッターを進めることができなかったけど，少しずつみんなと気持ちが一つになり，大きな声で「オー，エス」と漕ぎ，上手く進めることができるようになった。

○　漕ぐことはしんどくて，あきらめそうになったけど，友達が励ましてくれたので最後まで漕ぐことができた。

（２）ウォークラリー

午前と午後の時間を使う約１２㎞のウォークラリ―は，普段ではできない体験です。子供たちだけで自然の中に入り，協力したり励まし合ったりしなければ，ゴールにたどり着くことはできません。その分，やりきった時の達成感を味わうことができます。

ウォークラリーでの児童の感想

○　道に迷ってしまったときはすごく不安になったけど，グループの友達と協力できて一緒だったから最後まで歩くことができた。

○　足が痛くて歩くのがつらくなったときに，友達が代わる代わりおんぶをしてくれた。友達に感謝の気持ちでいっぱいだった。

（３）作戦タイム

活動と活動の切り替えの時間を，作戦タイムとして，前の活動から学んだことを，次の活動に生かすように工夫しました。カッター活動やウォークラリー，野外炊事等，それぞれの活動は違っても協力して実施するというテーマは同じです。作戦タイムでは，それらを意識させました。

例えば，カッター活動を通して，「自分一人でがんばっても上手くいかない。力を合わせる，声をかけ合うことで上手く漕ぐことができる。」ということを学んだ後の作戦タイムでは，次の野外炊事の目標を話し合いました。

その作戦タイムでは，「グループ全員が最後まで協力して一番おいしいカレーを作る」，「自分の仕事に責任を持ってカレー作りをする」，「お互いに声をかけあって，楽しくカレーを作る」等，子供たちは友達と協力していく目標を立てていました。

３泊４日の体験活動では，主体的に考え行動する時間を確保できるので，意図的に日程を詰め過ぎず，時間をしっかり使って，子供たちが達成感を感じられるようにしています。

体験活動当日のポイント：作戦タイムで，ねらいに近づける

タイミングを逃さず，子供たちが達成感を感じられるようにすることで，子供たちはさらに自信を持って取組を進めることができます。うまくできなかったことを出し合い，次にどうすれば良いかということまでを，出し合い話し合うことで，さらに協調性が高まります。

このように，常に目標を貫き意識させて取組を進めることで，学校に帰っても，子供たちの中には「楽しかった」という思いだけでなく，課題に対して，どのように考えたか，協力したか，課題を解決していったかという成功体験が，記憶に残っていきます。

３　児童実態を踏まえた事前学習

「新しいことに挑戦したい」という意欲を持つ児童もいますが，その一方で，「失敗したら笑われる」，「恥ずかしい」などの感情から積極的に行動することに躊躇してしまう児童もいます。そのため，年度当初から，学級活動などの時間や日頃の学校での生活などの機会をとらえて，これらのマイナスの思いを小さくして，挑戦した失敗は恥ずかしくないという思いを育むように取り組みました。

事前学習のポイント：目指す姿の明確化

山波小学校では，学校でできる人間関係づくりのプログラムを，学級活動の時間を使って学習するなど，体験活動時の子供たちの姿を想定し，事前に身に付けておかなければならない力を，子供たちに意識させて身に付けさせようとしています。このような日頃からの活動があるからこそ，３泊４日で子供たち同士が協力することができるのです。

さらにステップアップ！！

小学校学習指導要領解説特別活動編には，「集団の一員として，なすことによって学ぶ活動を通して，自主的，実践的な態度を身に付ける活動である」と特別活動の教育的意義の一つとして示してあります。山波小学校ではこの意義を踏まえ，「結果も過程も大事」と学級目標に含み，プロセスを重視しています。子供たちが失敗したことをプラスに変換しているかどうかを見ていったり意味づけていったりすることが重要です。

引用：小学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 20 年８月）

【事前指導の際の特別活動（学級活動）の学習指導案（主に本時の抜粋）】

本時のねらい

○　恥ずかしがらずに友達と手をつなぎ，課題解決の方法を考え，よりよい関係づくりのために話し合うことができる。

本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 評価方法
導入	1　ウォーミングアップのエクササイズをする。 2　手をつないだ感想を交流する。 3　本時の目標を確認する。	・手をつなぐことに慣れさせる。 ・最初の気持ちを出させ１時間の変化を感じさせる。 ・本時のめあてを提示し，活動の見通しをもたせる。	
	【めあて】「手つなぎゲーム」で目標タイムを出す方法を話し合おう。		
展開	4　グループ対抗「手つなぎゲーム」をする。 ・５分間のグループタイムをもち目標タイムと方法を話し合う。 ・話し合いが終わったグループは練習をする。 ・それぞれのグループで１回ずつチャレンジをする。 5　全員で「手つなぎゲーム」をする。 ・目標タイムと方法について話し合う。 ・目標タイムに向けて何度もチャレンジする。	・活動のきまりとゲームのルールを確認する。 活動のきまり ・設定時刻が来たら静かに待つ。 ・友達を励ます言葉がけをする。 ゲームのルール ・絶対につないだ手を離さない。 ・どうすれば早くできるのか他のグループの方法を参考にして考えさせる。 ・どのグループも解決策を思いつかないようであれば，方法を教える。	【思考・判断・実践】
終末	6　本時のまとめ・振り返りをする。 ・手をつなぐこと，目標達成のための話合いについて振り返る。 【まとめ】みんなで決めた目標を達成できると，喜びを分かち合える。 ・自分が生活の中で頑張っていくことを決める。	・最初の気持ちと，みんなで決めた目標を達成できた際の気持ちを比べ，変化を実感させる。 ・互いの頑張りについて励まし合えるようにする。	・グループでの話合いを通して課題解決の方法を考え，どのように生活に生かしていきたいかめあてを考え，実践している。 （観察・振り返り）

事前学習－体験活動当日―事後学習における取組ポイント：共感的な人間関係の育成

子供たちの状況は日々変化をしています。児童同士の関わりを深めていくには，成長のプロセス全体の中で，多面的・多角的かつ継続的に理解を進めていく必要があります。担任だけの見立てや特定の情報のみの把握にならないよう，複数の教職員が様々な角度から，子供たちの状況を把握することが大切です。

山波小学校は，学校教育目標・学級目標・体験活動の目標とがつながっているので，適切に情報共有できる仕組みとなっています。

３　体験活動のねらいに基づいた児童と保護者の感想

（１）児童の感想

○　３泊４日を通して今まであまり仲良くなかった友達と話すことができるようになりました。そして，その友達の面白さに気付くことができました。

○　家族と離れて生活したことで，今まであまり気付いていなかった家族のありがたさや大切さに気付くことできました。

○　いきいきスクールが学級の絆を深めるきっかけになりました。そして，学級の友達や先生をとても信頼できるようになりました。

（２）保護者の感想

○　班長としてみんなの前で，あいさつをしたり，みんなをまとめたりするのは恥ずかしがっていたみたいです。しかし，体験活動が終わった時にはやってよかったと感じたようです。それ以降は，いろんなことに積極的に挑戦したり，人前で発表したりすることができるようになりました。自分に自信が持てるようになったのだと思います。

○　家に帰るとたくさん話を聞かせてくれました。初めてのことばかりだったのですが，失敗しながらも友達と協力して，自分たちの力でやり遂げるという経験ができ，自信につながったようです。

○　友達との仲もさらに深まり，物事に対して，楽しみながら前向きに取り組むようになったと感じています。

コミュニケーション能力を育成するための取組

呉市立波多見小学校　校長名：三王　千尋　【民泊】北広島町

キーワード：ねらいの焦点化・話のテーマ・話を引き出す

1　コミュニケーション能力向上に向けた体験活動の概要

（1）児童が積極的にコミュニケ―ションをとる３泊４日の体験活動の主な内容

ふるさと音戸町と北広島町の自然や産業・伝統文化の違いを知り，双方の地域の良さを感じさせる。

○　農業・林業体験

○　民泊家庭での田舎暮らし体験

○　伝統芸能体験

	午前	午後	夜
１日目	清流体験	農業体験 田舎暮らし体験（夕食作り）	田舎暮らし体験
２日目	雲月山登山	田舎暮らし体験（夕食作り）	田舎暮らし体験
３日目	林業体験	田舎暮らし体験（夕食作り）	伝統芸能体験
４日目	奉仕活動	まとめの会	

（2）ねらい（◎重点）

◎　民泊先家庭とのコミュニケーションを大切にし，相手の立場になり，相手の思いを受け入れ，相手が納得するように自分の思いを言葉で伝えようとする。

○　話し手が自分に伝えたいことは何か，共に考えたいことは何かなど相手の話の内容を十分聞き取るように意識づける。

ポイント：ねらいの焦点化

話すことだけのねらいではなく，話題となった内容について，自分の考えと比べて共通点や相違点，また関連して考えたことなどを聞き手に返すことなど，聞くことについて具体的なねらいを設定しています。

2　実践の内容

（1）体験活動に向けた事前学習

地元のことを民泊先の家庭に紹介するなど，コミュニケーションをとることに期待感を持たせながら，子供たちが民泊先の方に進んで話したくなるように地元の良さや北広島町との共通点を子供たちに考えさせ，知らない人にも，子供たちから積極的にコミュニケーションがとれるように，話の切り出し方の準備を行いました。

○　事前学習の計画

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ
事前学習	・産業や伝統文化の特徴について知るために，北広島町と呉市の様子について調べる。 ・民泊家庭に紹介をするために，水産教室に参加したり，音戸町の紹介新聞を作ったりする。 ・体験活動の目標を設定したり，役割分担を決めたりする	６月～７月 （10 時間）	・総合的な学習の時間 ・国語科 ・図画工作科 ・学級活動

子供たちが地元の波多見地域を研究し，特徴的な風景の写真を，コメントを考えて持っていきました。遠足で音戸の瀬戸公園に行き，吉川栄治や郷土の文学者などの碑めぐりをした時，音戸の瀬戸の「おんどのわたし」といわれる渡し船に乗って音戸大橋の下をくぐっている様子の写真や，教室から見える海の写真などを持っていきました。写真を見せながら，その写真にまつわる話ができるように準備をしていきました。

事前学習によって話をすることができた児童の感想

○　教室から見える波多見の海の写真などを持っていきました。その写真を見せながら，お世話になる民泊のおじちゃんやおばちゃんに話しかけました。はじめは，きんちょうしましたが，写真を見せると，「きれいじゃね。北広島町とは，だいぶんちがうね。行ってみたいねえ。」，「これは，何をしているときの写真なのかね。」と話がはずみました。学校でいろいろと準備をしていたので，その質問にも答えることができたと思います。

○　はじめはきんちょうしました。はじめて準備をしてきた写真を見せると，おじちゃんが「おうきれいだね。こんなところで毎日勉強しょうるんか。いいのう。」と言ってくれたので，とてもうれしかったです。

ポイント：話のテーマ

民泊先に行った時の具体的な場面を想像させて，話のテーマを準備しておくことで，子供たちの方から積極的に話をすることができます。深く調べさせ，具体物を準備しておくことが重要です。自分たちのふるさとを民泊先の方に伝えることができたという自信をもつことができます。

さらにステップアップ！！

写真を提示したり，伝えたいことをメモしたりして，子供たちに形として持たせておくことで，風景などが伝わりやすくなり，話がはずみます。また，その写真を見て，民泊先の方の質問を受ける等，相手の話を引き出すことにもつながり，相手の話を聞くという目標に近づきます。

（２） ３泊４日の体験活動中

①民泊家庭での夕食作りの時

夕食作りに取り組んだ児童の感想

○　夕食作りの時，おじちゃんとおばちゃんは「上手だね。」，「昨日よりもうまくなったよ。」など，たくさんほめてくれました。そんなことをたくさん聞いていると，自然と話すことができるようになっていました。わたしは，学校でも，おじちゃんとおばちゃんの話し方を真似ていきたいと思いました。そうしたら，学校の友達とももっと仲良くなれると思いました。

○　１日目は，なかなか話せなかったけど，夕食作りを一緒にした時から，だんだんと話ができるようになってきました。初めて，一緒に同じことをする時に，料理の仕方を聞いたり，夕食作りで使う野菜の話を聞いたりしました。野菜は，５か月も大事に育ててきたという話を聞いて驚きました。「すごい！いつもいつもお世話をしていて，おじちゃんとおばちゃんもすごいね。」びっくりすると自然にそんな言葉が出てきて，みんなで笑い合いました。

②民泊先のおじちゃんとおばちゃんとの会話

民泊先での児童の感想

○　始めは，なかなか話ができなかったけど，わたしが話した波多見のことや写真を見せたりして，「きれいな風景じゃね。」，「波多見のことを良く調べて，勉強しているわあ。」などと，波多見のことや話をしたことをほめてくれたので，そのあとは，とても話しやすくなりました。

○　「昨日よりも，片付けを自分で進んでするようになったねえ。」「包丁の使い方が上手になったねえ。」と，ぼくのことを見てくれて前よりも良くなったとほめてくださったので，うれしくていろいろと話ができました。

体験活動当日のポイント：相手の話を引き出す

話をする側に立つだけでなく，民泊先のおじちゃんとおばちゃんの話をしっかり聞くことによって，相手の思いを受け止めながらコミュニケーションを図ることができます。民泊の方からの質問に合わせてさらに説明を付け加えるなど，聞き方についても，子供たちに考えさせていっていることが効果的です。

さらにステップアップ！！

話し方を教えるだけではなく，聞き方についても，日頃の学びを活用することができます。小学校学習指導要領解説国語編第５学年及び第６学年には，「話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」と指導事項が示されており，さらに「話の目的や意図は何か，自分に伝えたいことは何か，共に考えたいことは何かなど相手の話の内容を十分に聞き取る…」とあります。国語科の言語活動と関連付けるなどの工夫をしていくと効果的です。

引用：小学校学習指導要領解説国語編第５学年及び第６学年

思いやりを育むための取組

尾道市立吉和小学校　校長名：津田　秀司　【施設泊】福山市自然研修センター

キーワード：家族の大切さ・郷土愛・地域の方との交流

1　体験活動の概要

（1）ふるさとの良さを「みつめる・つなぐ・ひろげる」３泊４日体験活動の主な内容

ふるさとの良さを見つめ，受け継いでいくという思いを高めるために，ふるさとの料理作りや地元の先輩との交流を行う。

○　地域の方を招いての「吉和うどん」作り

○　地域の先輩を講師とした「吉和を学ぶ」講演会

○　地元食材を使った「吉和カレー作り」

	午前	午後	夜
１日目		人間関係づくりプログラム	ナイトハイキング
２日目	スコアオリエンテーリング	吉和うどん作り	家族からの手紙
３日目	吉和カレー作り	吉和を学ぶ（講話）	キャンプファイヤー
４日目	人間関係づくりプログラム	退所	

（2）体験活動を通じて育てたい児童の姿（◎重点）

いつも住んでいる地元を離れ，地元を見つめ直す視点を持たせる学習をしたり，地元の素材を使った料理作りをしたりする活動を通じて，ふるさとの良さを感じ，自分たちにもできることを考え，実際に行動しようという思いを持つ。

ポイント：ねらいの明確化

学校教育目標や学年目標と長期集団宿泊活動のねらいを関連させることで，３泊４日の期間でしかできないプログラムにすることができます。

2　実践の内容

（1）地域の方を招いての「吉和うどん」作り

「吉和うどん」は，吉和の海でとれた鯛から出汁をとり，つゆを作り，鯛の身をうどんの上にのせて食べるうどんで，昔から吉和の漁師さんの間に伝わっている料理です。また水は，地元にある鳴滝山の井戸水を使いました。鳴滝山は吉和小学校の子供たちが 39 年間も植樹を続け，清掃活動も続けている山です。地元でとれた食材や地元の水を使った料理作りを，地元のゲストティーチャーを招いて教えてもらいながら，子供たちが全ての行程を行いました。

ポイント：軌道修正の重要さ

「吉和うどん」作りに夢中になると，子供たちもうどんを作ることに集中してしまいました。出来上がって食べた時の感想が，「おいしい」という感想のみで，ねらいとしている「ふるさとの良さを見つめる」に向かっていかない状況が起きてしまいました。そういった時には，まずは教職員でねらいの再確認をし，子供たちにねらいに立ち返るように伝えました。「わざわざ，地域の方に来てもらったのは，吉和の良さを感じるためです。ただのうどんではなくて，吉和の水をつかい，吉和の海でとれた鯛を使ってだしをとった『吉和のうどん』です。」ということを，再確認しました。そうすることで，子供たちはただのうどん作りではないというねらいに基づいた感想がでてきました。ねらいに近づけるためには，指導者による軌道修正も重要な要素です。

（２）地域の先輩を「吉和を学ぶ」講演会

吉和出身の先輩を招いて，吉和の良さや夢を持つことの大切さについての話をしてもらいました。吉和出身の方が，たくさん活躍していることを知り，子供たちはまたふるさとへの想いを募らせているようでした。その後，児童から感じたことを話したり質問したりする交流の時間を作りました。

さらにステップアップ！！

吉和小学校では，事前学習として吉和の良いところの写真を，子供たちに撮影させておきました。その写真を，「吉和４４選」として，宿泊活動中に友達に紹介し合う活動を行っています。体験活動に入る前に，体験活動後に目指したい姿が明確であると，事前と当日と事後をつなぐ取組となります。

宿泊活動中に「吉和４４選」に取り組んだ児童の感想

○　吉和の町には素敵な場所がたくさんあることや，すばらしい自然，優しい人がいっぱいいることを発見することができました。

○　ふるさとについてじっくり考えたり，見つめ直したりすることで，「自分が安心して帰れる場所は，吉和なんだ」ということに気づくことができました。吉和の町は，わたしたちの宝物だと思います。

○　友達の写真から，気づかなかった吉和の景色や，知らなかった場所を知ることができました。今まで当たり前だと思っていた景色が，宿泊学習で町を離れてみると，なつかしく思えました。

○　町に残る伝統行事の写真を見て，誇らしく思いました。これからは自分たちがその伝統を守っていきたいし，引き継いでいきたいという気持ちになりました。

○　自分たちはたくさんの方にお世話になっているということに気づきました。感じたことを文章に表すことで，感謝の気持ちをもつことができるようになりました。

（３）保護者・地域の方へ向けた学習発表会での発信

宿泊活動で感じたことや成長を実感したことを，地域の方に伝えていくために，学習発表会で発表をしています。

発表会における児童の発表

○　ゲストティーチャーの方から教わったうどん作りを通して，わたしたちはふるさと吉和のやさしい気持ちを感じました。吉和のなつかしい香りや味を感じることもできました。

○　吉和の先輩から，夢を持つことの大切さや，夢を実現するためには，少しずつ努力をし，その努力をし続けることが必要だと教えてもらいました。わたしたちは先輩の熱い気持ちも受け継ぎました。

○　わたしたちは，吉和の町で生活をし，たくさんの人に支えられて生きています。今のわたしたちにできることは，小さなことかもしれない。でも大切に守り継ぐことで何かを変えることはできるんだ。わたしたちは，ふるさと吉和を守り継いでいきます。

子供たちが「吉和の良さを受け継ぎたい。」と伝えることで，地域の方も元気になっています。

発表会における地域の方の感想

○　児童が，地域のことを大切に思っている気持ちが，発表から伝わってきました。とても，嬉しかったです。吉和の事を分かりやすく発表していたので，大人にとっても改めて勉強になりました。

○　堂々と発表している様子から，３泊４日の経験や学習したことを通して成長した姿を見取ることができました。気持ちを込めたセリフの言い方や演技する姿を見て頼もしく思いました。

○　児童の発表を見ることで，自分たちも吉和の良さを改めて感じて，自分の町を誇らしく思うことができました。これからも，吉和の良さをしっかりと学んで，良さを引き継いでいってほしいと思います。

ポイント：感想の言語化

自らが成長した姿を子供たちの言葉で表現する活動を行うこと，また，地域のために自分たちにできることを日常的に実行できるようにしました。

さらにステップアップ！！

子供たちの成長を，自分たちの言葉で話すことができるようにするためには，どのような成長があったのかを，目標に照らし合わせた振り返りが大事です。集団での振り返りの際には，集団の目標を意識させ，個人で振り返る際には，個人の目標を意識させて行います。

（４）家族の大切さに気付かせる取組

３泊４日の間，いつもは一緒に生活をしている家族と離れることとなります。この期間は，いつもは感じることのできない家族の大切さに気付かせる絶好の機会です。

事前の保護者説明会の時に，保護者の方だけに伝えて，子供たちへ宛てた手紙を書いてもらっておきました。それを体験活動中に，子供たちに渡しました。

保護者の方へのお願い

子供たちへのメッセージを，２日目の夜に，サプライズで渡します。

テーマ「普段なかなか伝えられない　子供たちへの想い」

・子供たちの普段のがんばり　　・良いところ
・どんな経験をしてきて欲しいか　・どんなふうに育って欲しいか　等々
→お配りする封筒に入れて，個人懇談の時に御持参ください。
よろしくお願いいたします。

この手紙渡しは，体験活動の２日目の夜に行いました。１日目の夜は，友達同士の交流をメインに，３日目は最後の一日として，子供同士が達成感を味わえるようにキャンプファイヤーをメインにもってくるようにプログラムを考えたためです。

２日目の夜，家族と離れて少しさみしさを感じている子供たちにとっては，家族の方からの手紙を読んで，「よしっ，がんばろう。」と思っているように感じました。

家族の大切さについて気が付いた児童の感想

○　家族からの手紙を読んで，どんな気持ちで今まで育ててくれたのか，普段接してくれていたのかが分かりました。
○　手紙に書かれている内容を読んで，涙が出そうになりました。自分の事を思ってくれている気持ちや「元気に育ってきてくれてありがとう」という言葉が書かれていて，幸せな気持ちになりました。
○　家族は，自分では気がつかないことや，自分の良いところや悪いところも含めて，一番よく分かってくれている存在だということに気づきました。
○　自分をとても頼ってくれていることが分かりました。だから，自分自身が家族を困らせるようなことをしてはいけないと思いました。
○　「家族は協力し合って生活していくものなんだよ。だからあなたも周りの人と支え合って生きていく人になりなさい」という言葉が今でも胸に残っています。
○　三日目に，自分が家族に手紙を書くときには，素直な気持ちで書くことができました。家族の人と手紙のやりとりをすることで，普段は聞けない気持ちを知ることができました。自分の夢に向かって頑張ろうという気持ちになりました。

さらにステップアップ！！

体験活動の時に，子供たちから家族へ宛てた手紙を書くことも効果的です。手紙をもらったら，家族への想いも高まっています。各校のねらいに沿って，また，子供たちの実態に応じて，いつ，どのタイミングで取り組むのかを考えることが重要です。

（５）その他の教育活動とのリンク

吉和小学校では，豊かな体験活動を充実させようと，「花いっぱい栽培活動」，「鳴滝山清掃・植樹」，「美しい川をよみがえらせる清掃活動」などの体験活動を行っています。これらの体験活動を日常的に行い，長期集団宿泊活動とのつながりを持たせることで，児童自らがねらいを達成しようという意欲が高まっています。

また，食育と結びつけ，地域の食材などから，ふるさとの人々の知恵や努力を学び，さらにふるさとの良さを改めて体験させるようにしています。

主体性を育成するための取組

竹原市立竹原小学校　校長名：福田　明　【自校泊・大久野島国民休暇村】

キーワード：ＫＳＪ・地域の教育力

（K:協力，S:先を考える，J:時間を守る）

1　「学びの変革」の視点を取り入れた自校での体験活動の概要

（１）児童の主体性を育てる視点

教職員が計画した活動を，教職員の指示のもと，「こなしていく」という活動では，児童の主体性を育てることはできないと考え，「自分たちで作る体験活動」を目指しました。

（２）地域の教育力を活用する視点

学校を中心とした野外での活動を実施することによって，活動の内容を，児童の実態・希望に合ったものにすることができるため，他の施設を利用するよりも，児童の主体的な活動が可能になります。また，地域の資源を活用することができるので，地域の良さの発見につなぐことができます。

	午前	午後	夜
１日目		陶芸教室	テーブルマナー（夕食） 星空観察会
２日目	朝食づくり 大久野島への移動	テント設営 ウォークラリー	うみほたる観察会
３日目	テント片付け フィッシング 学校への移動	水泳 カレー作り	キャンプファイヤー
４日目	朝食づくり 振り返り		

2　「自分たちで作る体験活動」にするための４つの取組

（１）子供たち自らが目標を設定する。

「何の体験活動をするのか」「体験活動が終わったら，どうなっていたいか」ということを明確にさせていきました。そのために，「自分たちの長所で，より伸ばしていきたいこと」「課題なので改善したいこと」を，個人やグループで意見を出し合い，交流しながら整理し，学級全体の目標を決めていきました。

○Ｋ（仲間と協力する！）　○Ｓ（先を考える！）　○Ｊ（時間を守る！）

「子供たちが自ら目標を設定する」ことに関する児童の感想

○　自分たちで決めると「がんばろう。」という気持ちになって，やり切ろうと思う気持ちが強くなりました。

○　自分たちで目標を立てると，自分たちができていない所も分かりました。自分たちが苦手なことを目標にしたので，目標を達成することができた時は，より達成感を感じることができました。

○　自分たちで目標を決めると，自分たちに合った目標を決めることができます。より高いレベルにちょう戦して，より活動を楽しむことができました。

（２）自分たちで計画を立てる。

ＫＳＪの目標を達成するための活動計画は，「地域の何が活用できるか」「目標達成のためには，どんな活動がふさわしいか」を，児童自らが考えて立てました。すべての活動を児童が計画すると，当然，無理な活動も計画してしまうので，教職員から可能な活動や講師の紹介などアドバイスをしていきましたが，できるだけ児童が，「自分たちが計画した野外活動」と感じるよう，アドバイスの仕方を工夫しました。

「自分たちで計画を立てる」ことに関する児童の感想

○　自分たちで考えたので，次に何をするのか，わすれることがありませんでした。

○　自分たちがやりたいことができたので，やる気も出るし，「責任をもってやろう」と思うようになった。

○　自分たちで計画を立てると，少し苦手なことにもチャレンジする意欲がわきました。

（３）自分たちで活動を運営する。

主体性を育てるために，担当児童を明確にして自分たちで活動を運営させました。できるだけ教職員が指示を出すのを控え，児童自身に会の進行や活動の説明をさせました。すべての児童が何らかの活動の運営に関わるようにさせ，責任をもって役割を果たすことを意識させました。

「自分たちで活動を運営する」ことに関する児童の感想

○「自分たちがやっている」という気持ちになって，とても楽しかったです。

○　自分たちが進行したので，「自分だけではなく，みんなで行動している」ことがよく分かりました。より積極的に活動に参加できるようになったと思います。

○　自分たちが，どこまでできるか試すことができました。先生たちがいなくても，いろんなことができるようになると思いました。

○　どうしたらいいか考える力がついたと思います。人前に出て話をすることが増えて，やりきることで，自信がつきました。

（４）自分たちの活動を振り返る。

毎日，１日の終わりに振り返りを行いました。また，体験活動最終日にしっかりと時間を確

保して，自分たちの活動を振り返らせました。「自分たちで立てた目標は達成できたか」，「何が上手くできて何が上手くいかなかったのか」，「どう改善していくべきか」，「どんなことを今後の生活にいかしていきたいか」をグループごとに考えさせ，その振り返りをボードに書いて発表・交流しました。活動がやりっぱなしにならないよう，今後に生かすことを意識させました。

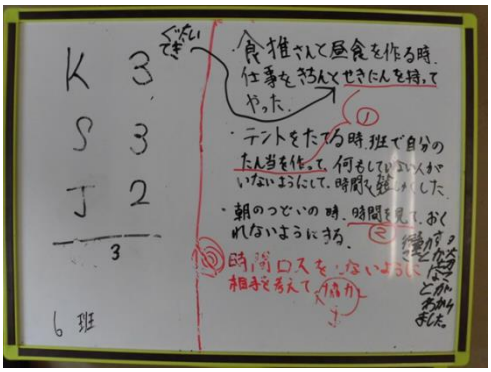
「自分たちの活動を振り返る」ことに関する児童の感想

○　説明する力がつき，最初に決めたＫＳＪを守ることができたか，正確に振り返ることができました。

○　目標を立てるだけではなく，きちんと振り返りをしたので，自分の欠点を再確認することができたと思います。

○　その日のことをその日に振り返らないと，何ができて何ができなかったが分からなくなるので，振り返りは毎日やってよかったです。

児童の感想にもあるように，日頃から学校で取り組んでいる主体的な児童を育成するための取組が，野外での長期集団宿泊活動においても実現できました。学んだことを活用するためには，目標を短く表現したことも効果的でした。体験活動が終わっても，子供たちは意識をしています。



ＫＳＪに基づいた実際の反省

ポイント：短く表現

自分たちで決めた目標は，キーワードで表現し，常に意識できるようにしています。

生徒指導の三機能を踏まえた取組ポイント：自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助する

竹原小学校の取組は，子供たちが決められたルールを守り，自分自身で責任が取れる範囲内で，自らが行動を選択し，その行動に責任を取ることもできる取組です。子供たちの様子にも，自分たちのさらなる可能性について展望している感想が見ることができます。

3　地域の教育力を活用していく取組

学校を中心とした野外での活動を実施することによって，活動の内容を，児童の実態・希望に合ったものにすることができるため，他の施設を利用するよりも，児童の主体的な活動が可能になる。

また，地域の資源を活用することができるので，地域の良さの発見につなぐことができる。

（1）地域の方による講師

・地元の陶芸家を招いての陶芸づくり

・地元ホテルにおいての食事マナーの学習

・市内の栄養教諭への献立，食材等の相談

（２）地域の資源や学校の施設の利用

・公衆浴場での入浴

・調理のための食材の買い物

・学校での飯ごう炊飯

（グレーチングを利用した手作りのかまど）

「地域の教育力を活用していく」ことに関する児童の感想

○　竹原小学校で過ごすことで，学校の長所や短所を見つけることができました。また，長所を活用するにはどうしたらよいか，みんなで考えることもできました。

○　買い物のとき，今まで話をしたことがなかった地いきの人に声をかけてもらって，仲良くなることができました。

○　自分たちの町で，「こんなことができるんだ。」と思いました。

ポイント：地域の教育力

地域の方々と積極的に関わったり地域の資源を活用した活動を行ったりすることで，子供たちが地域の良さを見つけることができます。

さらにステップアップ！！

体験活動の内容を，子供たちにも考えさせています。体験活動の目標と内容を関連させ，体験活動を通じてどのような自分たちになりたいのかを子供たちに考えさせることで，やりきったときの達成感を，さらに強く感じさせることができます。

４　３泊４日を終えた保護者の感想

○　それまで食事の手伝いなどあまりしていなかったが，体験活動後，食事の調理の際，手伝いを積極的にするようになりました。料理に関して興味がわいてきているのを感じます。

○　家に帰ると，自分の洗濯物を洗濯し，全て片付けていました。仕事から帰ってびっくりしました。

○　以前よりは周りを気遣いながら行動できるようになりました。大きな成長ではないけども，体験活動を経験し，少しずつ他の子を思いやることができたのかと思います。

○　自分たちだけで生活していくために，家庭では考えなくてよかったことを必然的に考えて行動しなくてはなりません。そういった環境を用意してもらえたことは，貴重な思い出だったと思います。帰ってきた時，「できたよ。」という顔をしていたので自信がついたと感じました。親が失敗や経験をさせてないだけかも知れないと感じ，意外とたちはできるものだと親として考えさせられました。

○　自炊から洗濯など自分の身の回りのことをすべて自分たちですることで，大変さと自分でもできたという自信がついたと思います。また，友達とたくさんの時間を過ごすことでそれぞれの役割分担などもしっかりとできていたのではないかと思います。

○　活動目標のＫ（協力する）Ｓ（先を考える）Ｊ（時間を守る）をその後の生活にも生かすように考えて行動できるようになりました。時計を見て次の行動の支度ができるようになっています。

特別な支援が必要な児童への支援を充実させるための取組

府中市立上下南小学校　校長名：東　博晃

【施設泊・自校泊】四季の里，キャンプインふちゅう，自校・旧矢野保育所

キーワード：視覚的支援・見通し

1　子供たちが安心して，夢中になれる環境づくり

野外での活動に際しては，いつもとは違う環境での学習になります。そういった環境になった時にも，子供たちが安心して活動できるように，３泊４日全体の活動の流れや次に行動しなければならないことについて，一人一人の子供たちが理解をすることが重要だと考えています。

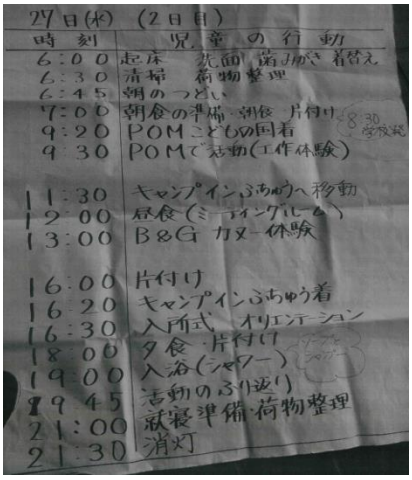
これらは，普段の学校生活においても大切にしていることではありますが，違う環境になった時にも，同様に，子供たちが安心して活動に夢中になれるように環境を整えています。

2　具体的な手立て

（1）視覚的な支援

活動全体の流れを，子供たちが常に確認できるように掲示をしています。子供たちは，口頭での指示だけでなく，この流れを確認して次の行動は何かを確認しています。

活動場所の移動に伴い，折りたたんで持ち歩くこととなるので，３泊４日が終わるころには，くしゃくしゃになってしまいました。



ポイント：視覚的な支援

自分たちで掲示物などを作成することは，学習内容の理解につながります。学習内容を事前に理解することで，子供たちは安心して活動に向かうことができます。

体験活動のテーマの一つとして，「役目を果たすこと」と掲げました。集団生活をする上で

は，協力することに加え，一人一人がみんなのために取り組むことが重要です。一人一人の子供たちは，そういったことを感じながら活動していました。

分からないことは友達に聞くことなど，学校生活でも大事にしていることと関連させて取り組ませることで，子供たちは，友達同士で教え合ったり相談をしたりしながら取組を進めることができていました。

体験活動での児童の感想

○　みんなで協力したらいろいろなことができました。岳山登山をする時，「危ないところがあるよ。」などと声を掛け合って協力し合いました。協力することは大事と思いました。

○　一人ではできないことでも，みんなと協力するとうまくいくことを学びました。

○　みんなと協力すると，一人では時間がかかることもすぐにできてしまうことに，自分でも驚きました。体験活動を通じて，みんなで協力することの大切さに気づきました。

（２）見通しを持たせるための事前学習

体験活動に行く前の事前学習では，全体の流れを学習し，一人一人の子供たちが理解できるようにしました。

本校では，地元の多くの方に支えられて様々な取組をしています。左記の写真は，飯ごう炊飯の食材の買い出しに，近くのスーパーに行っている時の写真です。また，「ユニカール」というカーリングのような競技を，地域の方に教えてもらう活動も行いました。

このようなときにも，まずはしっかりと話を聞くこととし，子供たち一人一人がその場で困らず，それぞれが判断しながら行動できるように，取組を進めました。

特に，ユニカールの取組は，初めて体験する子供とたちも多くいて，地域の方からのアドバイスを聞く場面も多くありました。そういったときにも，「初めての取組だから，まずは，しっかりと話を聞こう。」と子供たちが考えることができるように，「なぜそのようにしないといけないのか」を，子供たちに説明するようにしました。

このことは，日頃の学校生活においても重視をしていることです。子供たちがわくわくするような活動であっても，単に楽しさだけを味わわせるだけではありません。活動の流れを事前に学習し，その時に自分たちがどのように行動しなければならないかを考えさせることで，子供たちは見通しを持った上で，夢中で活動を楽しむことができるのだと思っています。

（3）活動を振り返る取組

学級・班・個人の目標に照らしてできたことや改善すべきことを，具体的な活動，行動として挙げさせて，どうすると良かったかを考えるようにしました。その結果，成果と課題がより明らかになり，次の日，何を目標としてがんばるのかが明確になりました。

また，「協力すること」の意味を振り返り，「声を掛けること」，「できたこと，高まったことは言葉にして伝えること」，「不十分なこと，困っていることをそのままにせず正しく丁寧に伝えること」を意識させました。「協力」するということを，生活の場に広げる取組みを行いました。

ポイント：見通しを持たせる支援

見通しを持たせる習内容を事前に理解することで，子供たちは安心して活動に向かうことができます。また，それを振り返り，子供たちに考えさせることによって，さらに学んだことを活用するまでに高めることができます。

体験活動での児童の感想

○　先生たちの話を最後までよく聞くようにしました。ユニカールでは，地域の方からのアドバイスを受けながら楽しくできました。

○　ユニカールでは，チームで作戦を立てたことが楽しかったです。

○　最後に転倒して残念だったが，カヌーの漕ぎ方がだんだん分かってきました。

○　ふりかえりの会では、相手が納得できるように自分の気持ちを伝えることができました。

体験活動を終えた保護者の感想

○　子供同士や先生と子供たちとの関係においては，「協力」や「妥協」ということが，親子関係よりも大切で，必要となることを，帰って来てからの表情や感想から感じました。

○　今まで以上に自分で考えて行動できるようになってきました。家での手伝いを，言われてするのでなく，自分から気づいてすることが増えてきました。

さらにステップアップ！！

野外での活動では，話を聞くだけでは理解できないこともあります。そういった時には，視覚的な支援が重要です。昨年度の様子などの写真を見せるなどの視覚的な支援を行うなどが効果的です。

あらかじめ子供たちにとって理解が難しそうな活動であれば，事前指導として，学級活動として，事前にルール等を学習しておくことなどの支援を考える必要もあるでしょう。

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組

体験活動の指導力を向上させるための教職員による宿泊研修

世羅町教育委員会　【施設泊】国立江田島青少年交流の家

キーワード：目指す子供たちの姿・言葉がけ

1　世羅町が目指す子供たちの姿「しなやかで，品格のある世羅の子ども」

（1）世羅町の基本方針

世羅町では，基本方針２の「夢や志を育む教育活動を進め，豊かな心を育てます。」を受けて，体験活動の推進をしています。「しなやかで，品格のある世羅の子ども」になるための３泊４日体験活動では，日常ではなかなか体験できない，協力をしないとできない活動を通して，目指す姿に近づけようと取り組んでいます。

また，基本方針４には「郷土への誇りと国際感覚をもった人材を育てます。」と掲げています。教育は，学校教育だけで完結するのではないからです。長い人生のどこかで，小学校の時代を振り返った時に，あの時の世羅の教育が，今の自分に役立っていることを実感する等，子供や孫にまで伝えていくことのできる教育を進めていきたいと考えています。

（2）３泊４日体験活動の計画

	午前	午後	夜
１日目	出発式（移動）	入所式 人間関係づくりプログラム	海ホタル観察 班長・室長会
２日目	カッター研修	所内ビンゴ	班長・室長会
３日目	野外炊事	カヌー体験	キャンプファイヤー 班長・室長会
４日目	退所点検 ディスクゴルフ	退所式 （移動）到着式	

３校合同研修や友達に関しての児童の感想

○　みんなで協力しないとできないことがあるということが分かりました。また，他の学校の人と友達になれるか，不安だったけれど，仲良くなれてとてもうれしかったです。これからも仲良しでいたいです。そして，６年生になったら世羅郡の水泳大会や町の陸上記録会で声を掛けたいと思います。

○　最初はなかなか話しかけにくかったけれど，最後の日の活動では，みんなが笑顔で仲良くできたと思いました。

○　野外炊事の時に，違う学校の友達と鍋を交代しながらきれいに洗ったことが心に残りました。

３泊４日を通して，めあてについて振り返った児童の感想

体験活動のめあてを，「規律正しく」「仲良く」「真剣に」としました，そのめあては，とても良くできたと思います。先生の話をしっかりと聞き，ルールを守って活動できたので，スムーズに活動が進んだのだと思います。

野外炊事の時の最後の点検で，お皿とおなべのふたに，炭が付いていたり，水が残っていたりしたので，直しになりました。この直しをしたことを，家庭科の調理実習の時に役立てたいと思います。

今回の活動をもとにして，大きな声であいさつをして，友達関係作りなどをしっかりとして，よりよい学校生活を送っていきたいと思います。普段の学校でのさまざまな場面で，意識して行動できるようにして行きたいです。

夕べのつどいで団体の代表者としてスピーチをすることとなった児童の感想

わたしは宿泊初日の夕べの集いで，代表者として世羅小学校を紹介するという役目がありました。わたしにとっての一大イベントです。行き道のバスの中では，そのことで頭がいっぱいになり，とても緊張していました。十一時半ごろに着いて昼食を食べ，仲間づくりゲームをした後，ついにその時はやってきました。

夕べの集いは，五分前には必ず集合し，静まりかえった中で，各団体の代表者が前に出て始まりを待ちます。わたしは，前に出ると氷のように固まってしまいました。他の団体の話は，全く耳に入ってきません。「いよいよ次はわたしの番だ。」覚悟を決めました。

でも，話し始めると，思っていたより緊張していませんでした。まちがえたりつっかえたりするかなと心配していけど，すらすら言うことができたのでよかったです。わたしは，人前で話したり大きな声を出したりということが苦手でしたが，少し自信がついた気がしました。

（３）目指す子供たちの姿に近づけるための教職員の指導力

体験活動を通し，子供たちの何を育てていくか，また，そのための指導・支援の在り方について配慮するということは言うまでもありません。指導者の関わり方が，体験を通して得られる子供たちの達成感に，大きく影響すると考えられるからです。

例えば，子供たちの失敗を恐れるあまり，必要以上の口出しをすることは，子供たちの主体性を奪うばかりか，関心・意欲までも失うことになりかねません。

支援のタイミング，支援の方法や内容，適切な評価等に配慮する必要があります。子供たちの心に「やってよかった。」「こんなことができるようになった。」このような思いの残る体験活動を実施するために，教職員を対象とした１泊２日の指導者宿泊研修を実施しています。

ポイント：目指す子供たちの姿

目指す子供たちの姿，そのような子供たちの姿にしていくための指導者としての姿はどうあるべきかを，常に明確にしながら取組を進めることが重要です。

2　教職員の指導力向上を目的とした１泊２日の指導者宿泊体験研修のねらいと概要

（１）対象者

経験年数が１年目～３年目の小学校の教員

（２）ねらい

人間関係づくりプログラムをはじめ，野外活動や宿泊体験を企画・運営，実施するにあたっての指導者として必要な知識や技能を身に付ける。

（３）概要

	主な内容
１日目	・開会行事 ・実践及び講話：人間関係作り①（人間関係作りを目的としたゲームの体験と理論研修） ・炊さん（簡易かまどづくり，薪割り，炊さん ） ・実践及び講話：人間関係作り②　（「からからつみき」の体験） ・夕べのつどい
２日目	・朝のつどい ・実践及び講話：ウォークラリー（地域を活用したウォークラリーの体験と理論研修） ・研修のまとめ ・閉会行事

研修会に参加した教職員の次年度の感想

２年前は活動をさせるだけが精一杯でしたが，今年は子供同士を関わらせるような声かけを意識しました。また見守る部分，助言すべき部分の見通しをもつことができていたので，わたしから手出しをしたり口出しをしたりすることが減り，子供たち同志が関わり合いの中で活動を進めるような支援ができました。それによって，子供たちのこれまでに見たことのない言動を見とることができました。

日頃はあまり話さない男の子から「ありがとう」と言われたことを嬉しそうに話してくれる女の子からは，子供たち同士が関わり合う中で生まれてくる子供たちの自信のようなものを感じました。

この研修会で，教師が指示を出すだけでなく子供同士が関わり合うように促す指導方法について学んだことによって，日常の学校や学級において，子供たちを成長させるための指導に生かすことができています。

ポイント：言葉がけ

子供たちが主体的に関わっていくための言葉がけを学ぶことが重要です。あまり話をしない消極的な子には，「うまくいくように，しっかり見守っているね。そのまなざしがいいね。」と頑張っていることを肯定的に認めてあげることで，自信につなぐこともできます。また，そのことを聞いた別の子も，「〇〇さんは，自分のことを見守ってくれていたんだ。もっと頑張ろう。」という思いになり，それが「ありがとう。」という言葉で表出されることになるかもしれません。こういった子供たちへの言葉がけを学ぶことができます。

さらにステップアップ！！

子供たちを主体的に関わらせるための教師の関わり方について，先輩教職員からの学ぶことも効果的です。

教科との関連を図り日常へとつなぐ体験活動

大崎上島町教育委員会　【民泊】北広島町

キーワード：教科との関連・系統的発展的

１　なぜ，「山・海・島」体験活動と教科を結びつけるのか？

「山・海・島」体験活動は，１月の終わりから２月にかけて，冬の北広島町で実施をしましたが，本単元は，その前の１１月頃に実施をしました。「民泊する部屋のこみぐあいは？」「行くのに大型バスと中型バスどっちがお得？」という問題を考えていくことで，「山・海・島」体験活動に行った時の様子を想像させることができ，児童の意欲は高まり学ぶ意欲につながっていきました。

２　第５学年算数科「単位量あたりの大きさ」における授業の実際

「単位量あたりの大きさ」では，異種の二つの量の割合としてとらえられる量を比べるという意味を理解させ，その比べ方や表し方を理解し，それを用いることができるようにすることを主なねらいとしています。

本単元を貫く課題として，「一つの量に着目したのでは比べられない時に，どのようにしたら比べることができるかを探ろう」としています。

指導計画

探究的なプロセス	時	指導内容	学習活動
課題設定 情報収集	1	泊まる部屋の混み具合を調べよう	民泊部屋割りの場面で，たたみの数と子どもの数から，三種類の部屋の混み具合を比べる方法を探る。 （たたみの数）も，（人数）も，ちがう時の混み具合を比べる方法を考え，説明しよう。
整理分析	2	泊まる部屋の混み具合を比較し，そろえよう	民泊部屋割りの場面で，３つの部屋の混み具合をランキングに表し，より差がない部屋割りにするにはどのようにしたら良いかを探る。 「はやく」「かんたんに」「せいかくに」「どんなときも」使える方法で，部屋ごとの混み具合の差をへらす方法を考えよう。
整理分析	3	異種の２つの質量を比べよう①（バスの大きさとガソリン代）	単位量当たりの大きさにして，ガソリンの量と車の走る道のりを比べ，お得な交通手段を導く。 問題 「山・海・島」体験活動で，北広島町に行くための交通手段についてなやんでいます。大型バス１台で行くのと，中型バス１台とワゴン車１台の計２台で行くのと，中型バス１台とワゴン車１台の計２台で行くのでは，どちらの方法が，ガソリンが少なく，お得に行けるでしょうか。単位量あたりで考えて，どうしてそう思ったかを説明してください。

			（１Ｌ）あたりでそろえる方法と，（１㎞）あたりでそろえる方法で比べてみよう。
まとめ 創造・表現	4	人口密度を比べてみよう	大崎上島町と，北広島町の面積と人口から混み具合を比べ，さらに，他の地域とも比べてみる。 いつでも使える，人口の混み具合（人口密度）を求める方法を考え，広島県内の混み具合を比べよう。
実行	5	パフォーマンス課題に挑戦しよう	単位量あたりの大きさをもとにして，大崎上島の特産物の１ha あたりの収穫量と１kg あたりの単位を出し，お土産によいものを考えることができる。 まとめ わたしは，お土産は「デコポン」がいいと思います。理由は，自分たちがお勧めしたい特産物の中で，一番単価が安いし，おいしく売れるみかんの開発をしていることを北広島町の方に伝えたいからです。

授業を終えた児童の感想

いつもより勉強が楽しかったです。それは，楽しみにしていた体験活動のことが問題だったからです。（デコポンを実際に持って行き）勉強したことを本当に使えてうれしかったです。しかも，民泊家庭で一緒に食べた時に「おいしいよ。」喜んでもらえたのでうれしかったです。

ポイント：教科との関連

今回の取組は，「山・海・島」体験活動の事前に行う学習であるので，事前指導にも役立つものです。具体的な場面を想像させながら，学習を進めていくことで，北広島町に行った時のことを想像させることができます。事前に行った時を想像させることが難しい場合には，前年度の実際の場面などの写真を用意しておき紹介するなど，活動前に不安に思っている子供たちに，具体を示して不安を和らげることもできます。

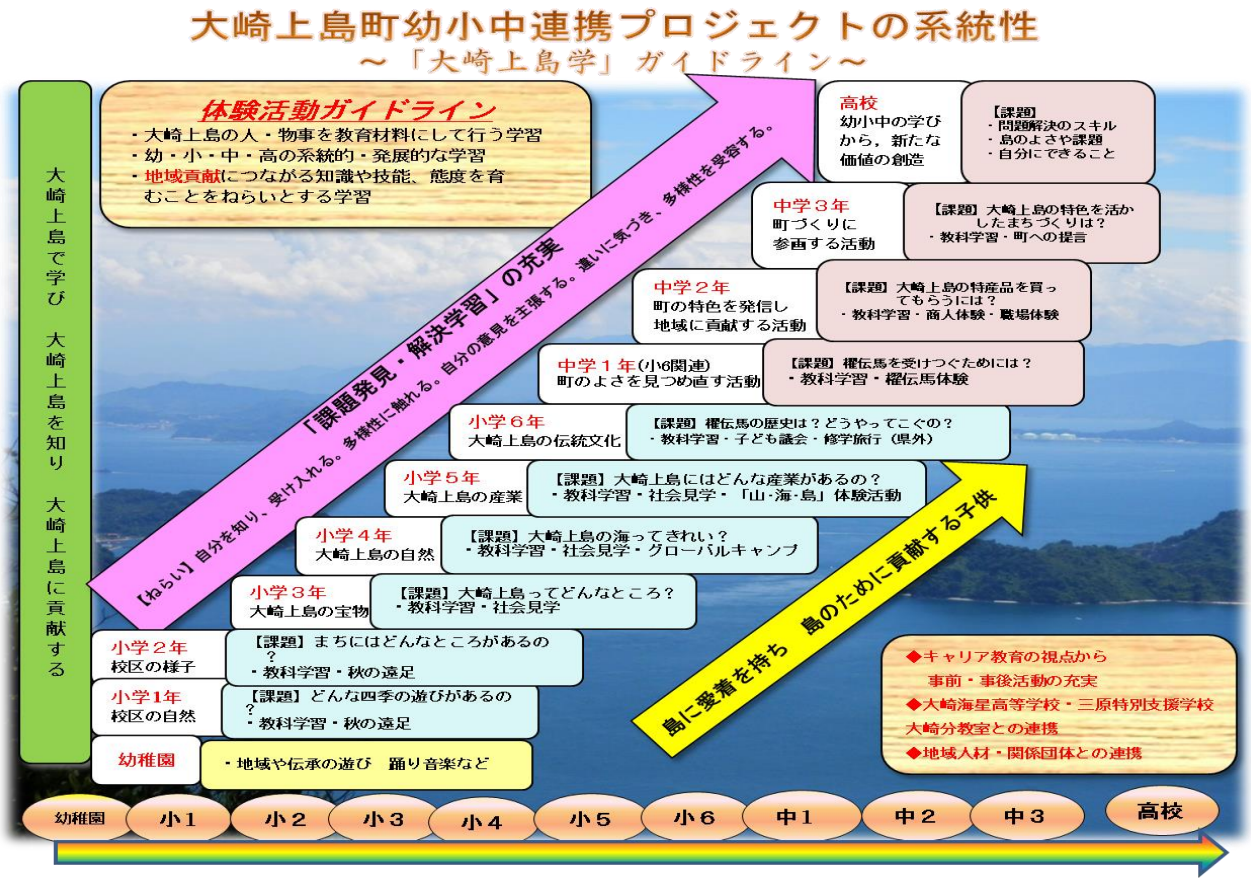
２　大崎上島町教育推進プラン

大崎上島の将来を担う　たくましく生きぬく子供の育成

（１）主なねらい

広島版『学びの変革』アクション・プランと連動した「大崎上島学」では，地域を学ぶカリキュラムの創造等を推進の軸とし，これまでの知識の習得に加え，能動的に知識を活用する力の育成を図っています。

また，４年生でのグローバルキャンプ（島内），５年生での「山・海・島」体験活動（県内），６年生での修学旅行（県外）と宿泊を伴い，他校の児童と親睦を深めながら学ぶことは，いわゆる中１ギャップの解消にもつながっています。



（２）冬の北広島町を舞台にした３泊４日の体験活動

ふるさと大崎上島町と北広島町の自然や産業･伝統文化の違いを知り，双方の地域のよさを感じさせる。

○　雪原トレッキング・雪中キャベツ収穫体験

○　スキー体験

○　民泊家庭での田舎暮らし体験

○　伝統芸能体験

	午前	午後	夜
１日目	雪原トレッキング	伝統芸能体験 対面式	田舎暮らし体験
２日目	スキー体験	スキー体験	田舎暮らし体験
３日目	スキー体験	雪中キャベツ収穫体験	田舎暮らし体験
４日目	まとめの会	出発式	

○活動班と宿泊班

本体験活動については，参加児童全員で事前にミーティングをし，テーマやめあて，活動内容，注意事項等の共通認識をしています。活動班は３校の児童を混成にしています。また，宿泊班についても，児童の実態を考慮して，一部を混成にするようにしています。

活動班，宿泊班についての児童の感想

今日は，体験活動の向けての初めての顔合わせ会だ。今までも「大崎上島学」や行事で会って

いるけど，4 日間も一緒に生活すると考えるとドキドキする。集まって，まず，先生がめあてについて話をした。もう少しで最高学年になるわたしたちが，自主性・コミュニケーション能力などをつけ，学校で中心となることをめざすテーマとなっていた。早速，プレゼント作りをする時に，他の学校の人に勇気を出して進んで話しかけてみた。すぐに仲良しになれた。最初の不安のドキドキが，ワクワクに変わってきた。今日は新しい友達がたくさん増えて，とてもうれしい一日になった。体験活動が楽しみです。

○スキー体験

スキー体験は，平成 26 年度は１日としていましたが，平成 27 年度からは 1.5 日としました。１日では，基本練習をして，１，２回ゲレンデを滑って終わるくらいの「スキーをやった」レベルで終わりますが，1.5 日だと２日目は主に滑る活動をすることができ，「スキーができるようになった」とほとんどの児童が言えるようになるくらい上達をしていきます。インストラクターによると，このレベルまでくると自分で自信をもって「できる」と言えるようになり，将来的にも自分からスキーに出かける意欲が持てるとようになるとのことです。

<u>スキー体験についての児童の感想</u>

初めてのスキーだったので滑れるかどうかとても不安でしたが，インストラクターの人が分かりやすく教えてくれたのでいつの間にかできるようになりました。目標を立てて練習をして，それができるようになると次の目標を立てて…の繰り返しをしました。そうしたら，一日目の午前中だけで滑り方・止まり方をマスターできました。午後からはリフトの乗降をしました。この壁が一番高かったです。いろいろな人に助けてもらいながら繰り返してやるうちに，簡単に乗れるようになり，スキーが大好きになりました。５年生みんなが滑ることができるようになったのでうれしかったです。大人になったらまたスキー場に行き，こんどはスノーボードもしてみたいです。

○田舎暮らし体験

田舎暮らし体験を行うことのできる民泊は，子供たちだけで宿泊をし，共に生活をするという貴重な体験となります。また，瀬戸内海の海に囲まれた生活と雪に囲まれた山地での生活の違いを味わい，それぞれの生活の知恵を学ぶこともできます。

民泊家庭は，何年も受け入れをされて熟練しており，安心して子供たちを任せることができます。子供たちをお客さんとしてではなく，家族として接してくれるため，温かく時には厳しく接してくださいます。たった３日間ではありますが，お別れの時に子供たちが涙を流して寂しがるのも，温かさが伝わっているからだと考えています。

田舎暮らし体験についての児童の感想

ふだんは自分から進んでお手伝いをすることが少なかったけど，北広島のお父さん，お母さんと一緒に料理や食器洗いをしてとても楽しかったです。包丁の使い方や盛り付けの仕方など教えてもらったことがたくさんあるのでこれからやっていきたいです。わたしたちがプレゼントしたキャンドルをともしながら故郷の話をしました。山と海の違いはあるけれど，故郷に対する思いは同じだということが分かりました。最後の日に，感謝の気持ちを込めてみんなで雪かきとトイレ掃除をしました。たった４日でしたが，お別れの時はとても寂しかったです。出発式の時に号泣してしまいました。お父さんお母さんありがとうございました。元気に過ごしてほしいです。

ポイント：系統的・発展的

５学年での「山・海・島」体験活動だけではなく，各学年で実施する「大崎上島学」をはじめ，４学年でのグローバルキャンプ（島内），６学年での修学旅行（県外）と宿泊を伴う活動については，他校の子供たちと親睦を深めながら学ぶことができます。発達段階を踏まえ，系統的・発展的な学習ができるように計画されています。

協調性を育成するための複数校による合同実施

三原市教育委員会

キーワード：ねらいの明確化・主体性・目的の確認

1　市内の複数の小学校による３泊４日の集団宿泊活動の合同実施のねらい

◎　異なる意見や他者の考えを受け入れたり，他者と協同して課題を解決したりするような，児童同士の磨き合いの場を通して，コミュニケーション能力や他者理解などの人間関係を形成する力を育成する。

○　活動後の振り返りを，合同や学校ごとに行うことにより，児童の自己有用感を高める。

ポイント：ねらいの明確化

児童同士の交流に関するねらいを入れて取組を進めることが効果的です。ねらいに入れることで，子供たちが課題意識を持つようになります。活動中にも意識するだけでなく，一日の振り返りの時にもグループ全体や個別の関わり方について振り返ることができます。

2　３泊４日体験活動の計画

	午前	午後	夜
１日目		人間関係づくりプログラム	各校でシェアリング
２日目	野外炊事	ウォークラリー	星空観察
３日目	野外炊事	トーチ作り	キャンプファイヤー
４日目	クラフト		

学校の違う子供たちが，５～６名グループを作り３泊４日を過ごします。一日目，早い段階で，人間関係づくりのプログラムを入れました。同士で一緒に活動を行うことによって，徐々に打ち解けていき，その他のプログラムにも取り組むことができました。そして，最終日には，別れを惜しむ姿が見られました。

ポイント：子供たち同士で課題を解決していく取組

違う学校同士でグループを組んで，取り組んでいくためには，人間関係づくりのプログラムが効果的です。このプログラムでは，子供たち自らが良好な人間関係を考えていくことになります。初日に設定し，主体的に学びを獲得できるよう意識づけるとさらに効果が高まります。

３泊４日を終えた子供たちの感想

○　３日目には，みんなで協力してとん汁とおにぎり作りの野外すいさんがありました。１日目のカレーライス作りの時よりも西小学校の友達との会話が増え，楽しく活動ができました。最終日の４日目，かべかけ作りでは，SAF（人間関係づくりプログラム）で考えた「支える」という言葉を，板に書きました。いっぱい支えられて３泊４日が終わりました，ぼくもだれかを支えられるようになりたいです。楽しい思い出がたくさんできた体験活動になりました。

○　野外活動を通じてたくさんの失敗やたくさんの思い出ができました。これが一回きりの体験だと思うと少し物足りない気分になります。新しい友達と別れるのは少しさみしいですが，３泊４日の体験はとてもいい体験になりました。

○　気付かないうちに友達ができていました。

○　他の学校の人はとてもはきはきとした声であいさつをしていたし，すばやく動いていたのですごかったです。わたしもそのことを生かしたいと思いました。

○　あいさつをきっかけに話しかけることができる。あいさつをするとよいことがあるなと思いました。

子供たち同士で解決できるように働きかけたエピソード

１日目，関係が築けず，ほとんど話をしていないグループがありました。様子を見ていると，他のグループの他の子供たちとは，それぞれに話はできているようですが，同じグループ内では，話ができていないようでした。こんな時，教職員がグループに入って，間を取り持つことはできるのですが，それをしませんでした。まずは，様子を見守りました。

夜の教職員でのミーティングの時に，そのグループの話題になりました。次の日の野外炊飯では，通常は１テーブルに２グループを配置するのですが，このグループだけ，１テーブルに１グループのみとしてみようと話をし，同じグループでの話ができるように環境を整えました。

次の日，しばらくすると，グループの中で会話するようになりました。「火がつかんよ。」「こうやって木をおけばいいんじゃない。」，「にんじんはどうやって切るの？」，「薄く切った方が，早く火が通ると思うよ。」などなど。こうなるとグループでの会話も他と同じようにスムーズになりました。

うまくいかないことに対して，大人がすぐに口出しをするのではなく，環境を整えてあげることで，同士で課題を克服していくことができるのだと感じました。

さらにステップアップ！！

このエピソードのように，グループによっては，打ち解けるまでに時間がかかるグループも出てきます。そういった時には，大人がすぐに介入するのではなく，子供たち同士で解決できるように，周囲の環境を整えることが効果的です。うまくいかないことを学びにできるのも，３泊４日の時間があるからこそです。

３　事前の打ち合わせ

事前の打ち合わせでは，児童の実態についての項目など，下記のような内容を扱いました。今年度は５回行いました。

実行委員会　※各校の代表が集まり，実行委員会を開催した。
○目指す子供たちの姿，日程，活動プログラムの確認　○引率教職員の役割
○学習指導・生活指導について　○バスの配車について　○必要経費確認
○持参物・医薬品の確認　○緊急連絡体制　○アレルギー対応　○熱中症対策確認
○配慮する必要がある児童に係る情報共有　等

ポイント：目的の確認

事前打ち合わせでは，細かい項目だけでなく，どのような子供たちにしていきたいのかという目的の確認が大切です。子供同士での課題解決をねらうためには，ケーススタディのようにこれまでの上手くいった事例や上手くいかなかった事例をためておくことが有効です。

4　グループでの振り返りと学校ごとの振り返り

合同開催における振り返りは，各活動の時はもちろんのこと，一日の終わりにも行いました。三原市の合同開催では，この振り返りを２回行いました。一回目は全体が集まった場で行う振り返りです。その後，学校ごとに集まった場での振り返りも行いました。

この振り返りにより，集団としての自分たちを見つめたり集団の一員としての自分を見つめたりと，複数の視点での振り返りができ，子供たちが自信を持ったり達成感を感じやすくなります。

振り返りについての児童の感想
○　友達と協力すればいろいろなことをやりきることができることがわかりました。その大切さにも気づきました。
○　友達と協力し合うのが大切だということに気づきました。これからもみんなと協力していきたいと思います。
○　どうしたら協力できるのか分かりました。

３泊４日を終えての保護者の感想
○　体験活動の前よりも周りの人の気持ちを考えられるようになったと思います。
○　体験活動で教わったことを家で実践するようになりました。特にカレーを，一人で最初から最後まで作って食べさせてくれたことに，大変感動しました。たくましくなったように感じています。

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組

安心・安全に活動できるようにするための実行委員会

神石高原町教育委員会【施設泊】国立吉備青少年自然の家

キーワード：役割分担・情報共有

1　体験活動の概要

（1）　神石高原町の長期集団宿泊活動

本町では，「山・海・島」体験活動“広島全県展開プロジェクト”実施以前から，町内全校を対象に合同での長期集団宿泊活動を行っています。子供たちだけでなく，保護者も小学校５年生になったら３泊４日の体験活動に行くことを当たり前に思っています。

また，町の長期計画「神石高原町まち･ひと･しごと創生総合戦略　チャレンジプラン 2019」―地域の未来を担う人材の創生―教育体制の充実に係る重点施策に位置付けています。町教育委員会はオブザーバーとして実行委員会に参加して，町をあげて取組を進めています。

（2）　合同で行うための体制づくり

右記のように，実行委員会のメンバーを組織しています。

平成 28 年度の実行委員会は，年に３回行いました。回数を厳選し，効率的でかつ効果的な準備ができるように取り組んでいます。

実行委員会
- 実行委員長（校長２名）
- 副実行委員長（校長３名）
- 事務局長（事務局校　教頭）
- 事務局次長（事務局校　５年担任）
- 会計（事務局校事務職員）
- 会員（各校５年担任）

<u>実行委員会に向けた事前準備</u>

第１回の実行委員会の前には，宿泊先の国立吉備青少年自然の家主催の利用団体を対象とした「合同事前打ち合わせ会」があります。昨年度の反省を踏まえた計画を基に，その打ち合わせに参加することとなります。

<u>第１回実行委員会：役割分担</u>

１回目の会では，顔合わせだけでなく，具体的な計画に基づく，各校の運営担当者や児童担当の役割までを分担していきます。昨年度に計画を立てておくことで，ここまでに粗方の流れができています。

<u>第２回実行委員会：実施に向けた最終確認</u>

第２回では，実施に向けた最終確認となります。作成したしおりを基にした確認と，児童の健康状態の確認を行います。

<u>第３回実行委員会：実施後の振り返りと来年度の計画</u>

第３回は，体験活動終了後に行います。事前に各校で共有している町内ＬＡＮの共有フォルダにデータを作成するようにします。それらを基に，次年度の計画を立てていくこととなります。

ポイント：教職員の役割分担

実行委員会における役割分担が明確になっています。神石高原町では，これまでの実践の蓄積によって，ポイントを押さえた効率の良い方法となっています。

（３）３泊４日体験活動の計画

○ねらい「ひとりになれる　ひとつになれる」

・主体性・責任を持った行動をし，課題解決能力を高める。

・コミュニケーション能力・協調性を深め，楽しい思い出をつくる。

○活動プログラムの実際

	午前	午後	夜
１日目		入所式 仲間づくりゲーム	天体観察
２日目	カッター活動	野外炊事	スタンツ練習
３日目	ネイチャーゲーム	オリエンテーリング	
４日目	焼板工作	退所式	

○活動プログラムの運営

カッター活動の運営をＡ小学校が行い，野外炊事についてはＢ小学校が行うというように，活動の運営については，各学校で担当をするようにしました。教職員の主体性は，子供たちに伝播するので，担当になると一層気が引き締まります。

○振り返りの充実

活動プログラムでは，３泊４日の期間を有効に活用し，ゆとりのあるプログラムとすることができます。そこで，活動終了後の時間を使って，振り返り活動を充実させるように取り組んでいます。

３校合同研修や友達に関しての児童の感想

○　他の学校の友達と仲良くなることができました。また，友達と協力すると，いろいろなことができると分かりました。

○　はじめは緊張していたけれど，いつのまにかいろんな人と仲良くなっていました。

○　学級のみんなとはなれて体験活動をするのは，とても不安だったけれど，友達がいっぱいできたのでよかったです。

体験活動終了後，２か月後の児童の感想

○　体験活動では，改めて友達や家族の大切さが分かりました。終わってから，前よりも友達や家族といる時間を大切にしようと心がけています。

○　体験活動を通して，できることは自分でしないといけないと感じました。体験活動が終わっても，家族の手伝いを進んでするようにしています。

○　体験活動で，たくさん知らない人にあいさつをしました。地域でも自分からあいさつができるようになって，どんな人でもていねいにかかわるようになりました。

○　知らない人の中でなかなか意見が言えませんでした。だから，自分の意見をできるだけ言うようにがんばっています。

○　責任をもって役割を果たすことの大切さを学んだので，学校でもしないといけないことを，責任をもってするようにしたいと心がけています。

2　児童の健康面等の把握

（1）教職員の参加体制について

職員の参加体制としては，活動班担当教員と特別支援学級の担任は，３泊４日の全ての日程に参加しています。管理職と養護教諭，その他の教職員については，途中で交代できるように体制を組んでいます。

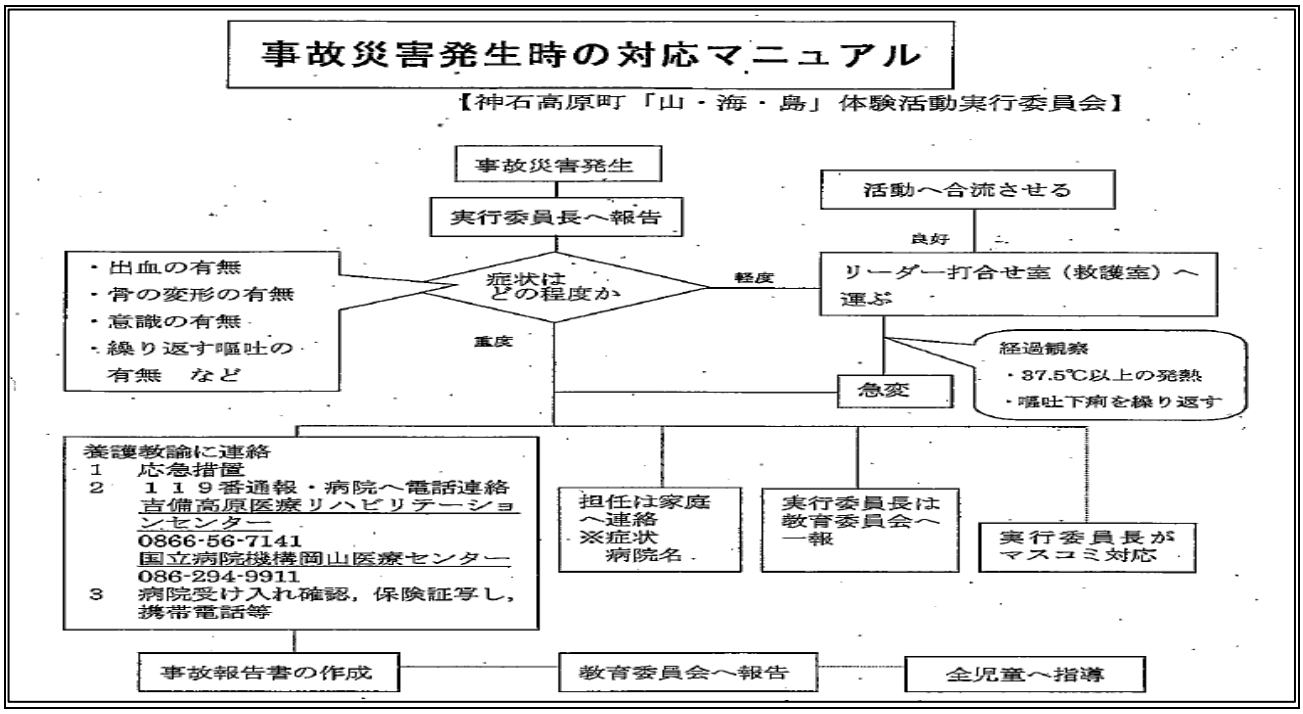
事務局では，事前に集約をし，実行委員会等で全員の健康状態について確認をするようにしています。また，養護教諭の交代時にも，書面と口頭で引き継ぎをするようにして，安全に活動ができるように配慮しています。

（2）食品アレルギー調査・健康状態調査

施設泊となるので，レストランのメニューについて，食品アレルギーについて事前に調査をしています。また，健康面についても，共通の様式によって状態の把握に努めています。

（3）緊急時の対応について

事前の準備をしていても，突発的に事故や災害が起こることがあります。そこで，下記のような対応マニュアルを作成し，緊急時に備えています。



1　発見者は，事故の症状が軽ければ，リーダー打合せ室（救護室）に運ぶ。重症と思われるときには，その場において，養護教諭に連絡する。
2　養護教諭は，直ちに応急処置を行い，吉備高原医療リハビリテーションセンターまたは国立病院機構岡山医療センターへ受け入れの確認をする。同時に事務局は救急車の手配を行う。また，担任は家庭へ症状と行き先の病院名や保険証持参のことを伝える。
3　養護教諭は，保険証の写しと携帯電話持参で，病院へ移送する。治療が長引くときは，途中，宿舎へ連絡する。
4　養護教諭不在のときは，担任や他の教職員が対応する。
5　新聞社等，マスコミへの対応は実行委員長が行う。（窓口の一本化）
※　事務局は，現場写真の撮影や事実経過の記録を必ず残しておくこと

※対応マニュアルの事務局は，事務局校を指す。

3　今後に向けて

○　実行委員会の内容の改善について

合同実施の取組をしながら，これで十分というようなことは，なかなかありません。取り組ながら改善してくことが重要だと考えています。今年度の実行委員会の最後の会において，来年度に向けた改善点について確認をしました。

その場では，児童の健康安全等危機管理体制のさらなる充実についての意見が出ました。そして，次年度は３泊４日の体験活動の直前にもう一度，直近の子供たちの健康状態等について実行委員会を開くことを確認しました。子供たちの直近の健康状態について，引率者全員で共有しておくことや，報告・連絡・相談の流れについて反省を踏まえて，さらに充実させようということになりました。

○　さらなる質の向上に向けて

各校で行う事後学習では，その後も，さらに変わろうと成長している児童の姿を見ていく必要性があります。それらの子供たちの状況についても共有化をし，次の目標を立てることで，さらに体験活動を充実させることができると考えています。事前と体験活動当日，そして，事後の学習との関連をさらに充実させていきたいと思います。

自律・責任	自尊感情	協調性	コミュニケーション	思いやり	主体性	特別な支援の充実	市町教育委員会の取組

ふるさとを知ることを目的とした学習

北広島町教育委員会【自校泊・北広島町民泊】

キーワード：町のビジョン・交流の機会

1　ふるさと夢プロジェクトの目的

北広島町では，少子高齢化が進み，将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されています。教育委員会では，「ふるさとを知り，ふるさとを愛し，将来ふるさとに住みたい，ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし，ふるさと夢プロジェクト事業を実施しています。

北広島町では，「こんなことができる，こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い，子供たちに町の魅力を再認識させ，将来「北広島町に住みたい，北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成をしようとしています。

事業を通して，全町の同じ学年が同一の体験をすることで，町内には多くの友達がいることを認識することができます。このことで仲間意識の醸成を図ることができます。

2　ふるさと夢プロジェクトと長期集団宿泊活動との関連

５年生においては，ふるさと夢プロジェクトの趣旨を踏まえ，町内の９つの小学校間の交流体験等を実施する取組として，北広島町における「民泊体験」を実施しています。

この取組は，教育委員会単位の取組ではなく，町長をプロジェクト応援隊長とし，副町長・教育長を副隊長，関係各課長をはじめ町全体で応援隊を組織して取り組んでいます。

子供の教育は，「家庭で育て，地域で鍛え，学校で磨く」と，町をあげて取り組むことで，地域の大人の一生懸命な姿を見せることもできています。

（1）グループごとの民泊の期間

Ａグループ：新庄小・川迫小・八重小・本地小・豊平小（７月４日～７月７日）
　■芸北文化ホール　■芸北大暮養魚場　■芸北・豊平・千代田地域民宿等　■登山（高杉山）
Ｂグループ：芸北小・八重東小（７月 11 日～７月 14 日）
　■豊平中央公民館　■芸北大暮養魚場　■大朝・豊平地域民宿等　■登山（龍頭山）
Ｃグループ：大朝小・壬生小（７月 19 日～７月 22 日）
　■芸北文化ホール　■芸北大暮養魚場　■芸北・豊平地域民宿等　■登山（雲月山）

（2）プログラムの実際

	午前	午後	夜
１日目		各学校に集合	各学校に宿泊
２日目	合同での開会式	児童交流会 対面式	民泊家庭での 田舎暮らし体験
３日目	川魚つかみ取り体験	田舎暮らし体験	民泊家庭での 田舎暮らし体験
４日目	登山	お別れ式 閉会式	

（3）児童交流会

他校の児童と交流し，仲良くなるために人間関係づくりを行いました。活動班ごとに自己紹介や目標決めを行いました。

声を出さずに身振りや手振りだけで誕生日順に並ぶ「バースディチェーン」や「猛獣狩り」等のレクリエーションをし，とても盛り上がりました。

ポイント：町のビジョン

町としてのビジョンを明確にし，教育委員会が中心となり，民泊を所掌している商工観光課などと連携を図りながら取組を進めています。

さらにステップアップ！！

町のビジョンを踏まえ，教育委員会が中心となり取組を進めることによって，学校を超えた児童同士の交流が生まれています。

3　実施後の感想

（1）参加した児童の感想

民泊体験

○　畑の野菜を手で抜いたことがあまりなかったので，貴重な体験になりました。

○　川魚のつかみ取り体験で，命の大切さを知りました。そのことを思い出しながら，食べる時や食べ終わった時など，心を込めて「いただきます」「ごちそうさま」を言いたいと思いました。

○　知らない人の家に泊まるのは，とても緊張したけれど，わたしたちをやさしく受け入れてくださったのでうれしかったです。

他校との交流

○　ちがう学校の人と同じ班で活動しましたが，みんなと仲良く過ごすことができました。

○　知らない人とも話をすることが大切だと感じました。
○　登山でつらい時に，他の学校の友達と励まし合いながら登りました。班の友達とも仲良くなったので，また会いたいなと思いました。

体験活動を通して変わったこと
○　民泊家庭では，掃除を協力してできたので，家でも掃除をするようになりました。
○　ご飯を作るとき，とても大変でした。もっとお母さんに感謝しないといけないと思いました。
○　自分が生まれた町，北広島町をもっと知りたいと思いました。

（２）保護者の感想

保護者の感想
○　お手伝いに関して，親が何も言わなくても進んでやってくれるようになりました。
○　嫌なことでも後回しにせずに，先にやらなければいけないと思うようになってきました。
○　集団生活の中で，人のペースに合わせたり我慢したり，人に助けてもらったことなどの話を聞き，普段の学校生活以上に多くのことを体験して帰ってきたなと感じました。
○　帰ってきた時の笑顔がすばらしく”やったぁー”という達成感を感じました。

ポイント：様々な交流の機会

合同で開催することで，全町の同じ学年が同一の体験をすることができます。町内の様々な友達と交流することで，別の行事で出会ったときにも，すぐに打ち解けることができます。

さらにステップアップ！！

出会いの場面を，子供たちが企画し運営をしていくことで，さらに感動的な場面を生み出すことができます。